

令和3年度 事業報告

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

目 次

川崎市社会福祉協議会

	頁
基本方針・重点事業・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 法人運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2 調査・研究事業・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3 研修事業・・・・・・・・・・・・・・・・	4
4 企画・広報事業・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5 区社協推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・	5
6 助成事業・・・・・・・・・・・・・・・・	5
7 部会・委員会事業・・・・・・・・・・・・・・・・	6
8 福祉基金運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
9 資金貸付事業・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
1 0 共同募金事業・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1
1 1 受託事業・・・・・・・・・・・・・・・・	1 2
1 2 ボランティア活動振興センター事業・・・・・・・・	1 5
1 3 あんしんセンター事業・・・・・・・・・・・・・・・・	1 7
1 4 地域生活支援ＳＯＳかわさき事業・・・・・・・・	1 9
1 5 総合研修センター管理経営事業・・・・・・・・	2 1
1 6 居宅介護等事業・・・・・・・・・・・・・・・・	2 2
1 7 老人いこいの家管理経営事業・・・・・・・・	2 3
1 8 老人福祉センター管理経営事業・・・・・・・・	2 3
1 9 公益事業・・・・・・・・・・・・・・・・	2 3
2 0 民生委員児童委員活動及び 川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働・・・・・	2 6
2 1 災害活動関連事業・・・・・・・・・・・・・・・・	2 6
2 2 その他・・・・・・・・・・・・・・・・	2 6
川崎市川崎区社会福祉協議会・・・・・・・・	2 8
川崎市幸区社会福祉協議会・・・・・・・・	3 4
川崎市中原区社会福祉協議会・・・・・・・・	4 2
川崎市高津区社会福祉協議会・・・・・・・・	4 8
川崎市宮前区社会福祉協議会・・・・・・・・	5 9
川崎市多摩区社会福祉協議会・・・・・・・・	6 8
川崎市麻生区社会福祉協議会・・・・・・・・	7 8

令和3年度 事業報告

基本方針

新型コロナウイルス感染症の蔓延が二年を超えるなか、国際秩序の不安定化、資源価格や消費物価の高騰などにより私たちを取り巻く環境は大きく変貌しています。

このような状況の下、休職や失業による生活困窮、孤立や孤独、こどもや女性をはじめとした自殺の増加など、地域住民が抱える課題が複雑化、複合化しています。

国では令和3年4月から、包括的な支援体制を構築できる仕組みとして、社会福祉法に基づく重層的支援体制整備事業を施行し、地域共生社会の実現を目指しています。川崎市では、地域包括ケアシステム構築に向けた第2段階の「システム構築期」とし、2025年に向けて「意識づくり」「仕組みづくり」「地域づくり」の取組を進めています。

本会は、川崎市の最大のパートナーとして、令和3年4月に、市社協の経営改革基本方針である「骨太方針」を策定し、経営の健全化を図りつつ、本会が持つ地域福祉のネットワークを活用しながら、地域福祉推進における中心的な担い手として、地域包括ケアシステム推進に向けた取組を展開してきました。

特に令和2年3月から引き続き、生活福祉資金貸付制度の特例貸付を実施し、これまでに（令和4年3月末現在）4万5千件、173億円を超える申請を受付けており、生活困窮者自立支援制度との連携により、生活保護に至る前のセーフティネット的な役割を果たしています。

また、昨年度に引き続き、生活困窮に置かれている方に、行政をはじめとする相談機関を通じて市民や企業などから寄せられた食糧や日用品などをお渡しする、市内社会福祉法人との連携事業「食糧支援かわさき」及び地域福祉活動における感染拡大防止策をまとめた指針「ヒント集」の作成など、コロナ禍の社会情勢や環境の変化に対応する独自の取組を行ってきました。

また、地域福祉活動推進計画において定めた、3つの基本目標の具現化に向け、多種多様な団体との連携・協働、法人の公益的取組への支援、コミュニティソーシャルワークの機能強化に取り組みました。

組織経営基盤の強化としては、外部環境の変化と組織の内部課題への対応を図るとともに、スクラップ&ビルドによる計画的な事業の実施及び検証、人件費の抑制、働き方改革に呼応した嘱託職員の処遇改善、組織力の向上と職員のスキルアップ、事業の見える化・分かる化に、引き続き取り組みました。

本年度は、本会が第63回大都市社会福祉施設協議会の実行委員会事務局を担い、社会福祉事業の充実と向上に資することを目的に開催しました。

令和3年度事業計画のもと、重点事業を柱として事業を実施してきましたので、次のとおり報告します。

◆重点事業◆

1 第5期地域福祉活動推進計画の推進

総合的な相談支援体制の構築に向け、地域福祉のネットワークづくりやコミュニティソーシャルワークの具体的な実践手法や取組内容に関する検討会を立ち上げ、「住民が気付いたことや受け止めた（寄せられた）相談を、必要な支援や関係機関などにつなげ、気づいたことなどを話し合う場づくりを行い、課題解決を図る」という社協におけるコミュニティソーシャルワークの機能強化への取組を行いました。

行政施策との連携を深めるため、これまでの本会の取組について、そこで感じた課題、今後の方向性について本会職員と市長との意見交換会を行いました。

新たな生活課題に関わる取り組みとして、あんしんセンターにおける「終活支援モデル事業」、川崎区をモデルとした、食を通じた「子ども子育て家庭見守り支援ネットワークづくり」の令和4年度事業実施に向けた準備を進めました。

2 組織経営基盤の強化

法人統合による会員制度の見直しにより、市会員として33施設、区会員として99施設が新たに第6種会員として加入していただくことができました。

また寄付の仕組みとしてソフトバンクが提供する「つながる募金」を導入するとともに、ホームページのバナー広告募集やLINEスタンプの販売に向けた取組など、新たな視点から事業外収入方策を模索しました。

併せて、全ての事業・予算化の精査と財源確保、委託事業等の見直し、人材育成計画を推進、介護保険事業の経営改善に向けた取り組み、効率的な組織運営方法など、経営基盤の強化と財政健全化に取り組みしました。

川崎市成年後見支援センターを川崎市から受託し、家庭裁判所や弁護士会等の職能団体との連携強化を図り、成年後見利用促進など権利擁護の取組を推進するとともに、効率的な運営をしました。

総合研修センターを指定管理者として受託し、行政と連携を図りながら、地域リハビリテーションの推進を目指し、福祉専門職の養成に取り組みしました。また、川崎市総合福祉センターは、指定管理期間内に大規模改修が計画されており、その影響を見据えて、総合福祉センターの円滑な運営に取り組みしました。

7区の老人福祉（・地域交流）センターは、地域交流、多世代交流、介護予防拠点としての機能を強化し、指定管理事業のより効果的な運営を図るため一つの組織に統合しました。

組織が抱える課題の発掘・解決に向け、常務理事と職員との意見交換会の実施、及び情報共有の場を設置し、市社協・区社協における各事業の方針・方向性や事業にかかわる意識の共有を図りました。

3 想定される災害に備えた地域防災力の向上

災害ボランティアセンターの役割・位置付け、川崎市・かわさき市民活動センター・本会の役割、全市と地域拠点の在り方、多様な媒体による情報発信、技術ボランティアの活用、災害ボランティア関係団体との協力体制、費用負担の在り方を明確化しました。

今後、想定される大規模災害に機動的な対応が図れるよう、災害ボランティアセンターの運営訓練を実施し、運用マニュアルの見直しに取り組みしました。

事業報告の内容

1 法人運営事業【341,867千円】

【サービス区分事業活動支出 339,555千円】

【サービス区分施設整備等支出 1,245千円】

【共同募金配分金 1,067千円】

(1) 三役会、理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催

- ア 三役会の開催 3回（6月9日、10月4日、3月9日）
- イ 理事会の開催 5回（6月14日、6月30日、10月11日、
12月24日※決議の省略、3月15日）
- ウ 評議員会の開催 4回（6月29日、10月29日、1月10日※決議の省略、
3月25日）
- エ 評議員選任・解任委員会の開催 2回（6月17日、10月18日※決議の省略）

(2) 監事会の開催、会計監査人監査の実施

- ア 監事会の開催 1回（6月7日）
- イ 会計監査人（太陽有限責任監査法人）による監査の実施
- ウ 会計監査人による監査報告の実施
- エ 会計監査人による監査計画の説明（10月11日）

(3) 会員の増強 令和3年度新規入会会員

- ア 正会員 33（第6種 33施設）
- イ 協賛会員 1

	R3実績	R2実績
正会員数	499	471
協賛会員数	15	14

(4) 苦情解決の実施と推進

- ア 苦情受付件数 3件
- イ 第三者委員会議の開催 1回（11月17日）

2 調査・研究事業【270千円】

【サービス区分事業活動支出 234千円】

【共同募金配分金 36千円】

(1) 川崎市・区社会福祉協議会正副会長会議の開催 1回（1月31日）

(2) 地域包括ケアシステムや地域福祉の推進

- ア 第5期地域福祉活動推進計画の推進
第5期地域福祉活動推進計画を作成し、会員や関係機関に配付

イ 川崎市における地域福祉のネットワークづくりに向けた検討会議

(ア) 会議 5回(5月31日、6月28日、9月1日、10月12日、11月24日)

(イ) 報告書の発行(1月)

(3) 人材育成計画の推進

ア 人材育成計画推進員会議の開催 2回(9月29日、11月26日)

※2月16日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

3 研修事業 【491千円】

【サービス区分事業活動支出 44千円】

【共同募金配分金 447千円】

(1) 職員研修の実施

	R3実績	R2実績
研修数 (件)	10	5
受講人数 (延べ)	395	428

ア 新規採用職員研修 4回(4月2日、6月2日、9月2日、12月2日)

イ 階層別(主任)研修 3回(2月4日、3月8日、3月15日)

ウ 職員基礎研修 1回(1月～3月 ※各職場での動画視聴研修)

エ 若手職員フォローアップ研修 1回(12月22日)

オ 防災訓練 1回(11月14日)

(2) 各種研修への参加・職員資格取得補助

ア 全社協、県社協、その他の研修への参加 7回(延べ13名)

イ 職員の資格取得の補助 延べ24名

4 企画・広報事業 【4,292千円】

【サービス区分事業活動支出 728千円】

【共同募金配分金 3,564千円】

(1) 令和3年度川崎市社会福祉功労者表彰 川崎市社会福祉協議会表彰の開催

※川崎市社会福祉大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、表彰式のみ実施
表彰式(10月26日) 参加者12名

(2) 広報紙「川崎の社会福祉」の発行・リーフレットの発行

ア 広報紙「川崎の社会福祉」 年4回(592号～595号)

各12,000部発行

イ リーフレット 1,500部発行

(3) ホームページの運用と管理

ア ホームページ

- (ア) 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 (<http://www.csw-kawasaki.or.jp/>)
- (イ) 川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）(<http://www.sfc-kawasaki.jp/>)
- (ウ) かわさき福祉情報サイトふくみみ (<http://k-fukumimi.com/>)
- (エ) 総合研修センター (<http://www.kourei-c.jp/>)
- (オ) ShareSmileかわさき特設サイト (<http://sharesmile-kwsk.wixsite.com/sharesmile>)

イ フェイスブック、ツイッター

- (ア) 川崎市社会福祉協議会（災害情報専用）フェイスブック、ツイッター
- (イ) かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック
- (ウ) 総合研修センター フェイスブック
- (エ) ShareSmileかわさき ツイッター

5 区社協推進事業【185, 193千円】

【サービス区分事業活動支出 185, 074千円】

【共同募金配分金 119千円】

(1) 川崎市・区社会福祉協議会正副会長会議の開催【再掲】 ⇒2-(1)

(2) 区社協事業との連携・協働

- ア 川崎市社協・区社協間のグループウェア活用等による情報提供・情報交換
- イ 区社協地域課職員研修の開催 1回（4月28日）
- ウ 経理担当者会議の開催 1回（1月21日）

(3) 地区・区社協役職員等の研修会の開催（地域部会事業）

- ア 地域部会トップセミナー 1回（11月26日）
- イ 地区社協役員等研修会 1回（3月11日）

6 助成事業【11, 110千円】

【サービス区分事業活動支出 11, 110千円】

(1) 社会を明るくする運動への協力

第71回川崎市社会を明るくする運動に助成 助成額20,000円

(2) 民間老人いこいの家運営費助成事業

- ア 久地第二老人いこいの家に助成 助成額273,964円
- イ 二子老人いこいの家に助成 助成額350,000円

(3) 民間社会福祉施設従事者福利厚生費助成事業

川崎市民間社会福祉施設連絡協議会を開催し、本会会員の民間社会福祉施設に対し助成

- ア 川崎市民間社会福祉施設連絡協議会 3回（11月9日、12月15日、3月23日）
イ 福利厚生費の助成 95法人・施設（7,039名） 計 1,906,000円

（４）ふれあい活動支援事業の推進

- ア 会食活動に助成 109団体 計 15,242,000円
イ 配食活動に助成 6団体 計 1,310,000円
ウ ミニデイサービス活動に助成 12団体 計 2,536,000円
エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催（11月9日、1月12日）

（５）法定外緊急援護事業資金の交付（生活困窮者緊急援護資金）

市内福祉事務所による生活困窮者緊急援護資金事業に交付 総額220,000円

（６）母と子のつどい

県社協「令和3年度母と子のつどい」

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止【支出なし】

（７）福祉基金による団体等助成

福祉活動団体に助成 2団体 計514,500円

（８）障害者団体等活動助成金

障害者団体等に助成 9団体 計850,000円

7 部会・委員会事業【7,846千円】

【サービス区分事業活動支出 6,031千円】

【共同募金配分金 1,815千円】

（１）部会・協議会の開催、交流事業及び研修事業等の実施

ア 地域部会

- （ア） 部会議 2回（6月7日、3月11日）
（イ） 正副部会長会議 3回（5月19日、8月4日、2月17日）
（ウ） 区社協会長会議（9月22日）
（エ） 地域部会トップセミナー【再掲】 ⇒5-（3）
（オ） 地区社協役員等研修会【再掲】 ⇒5-（3）

イ 法人経営者部会

- （ア） 部会議 2回（5月7日、3月10日）
（イ） 企画委員会 5回（4月19日、7月30日、12月9日、2月2日、2月28日）
（ウ） 法人経営者部会と市長との意見交換会（2月7日）
（エ） 研修会 2回（12月25日、2月22日）
（オ） 第63回大都市社会福祉施設協議会（川崎市大会）実行委員会に委員として参加
（カ） 情報提供の実施

ウ 施設部会

- (ア) 部会議 4回（6月2日、8月31日、11月9日、3月23日）
- (イ) 研修会 1回（2月22日）
- (ウ) 第63回大都市社会福祉施設協議会（川崎市大会）実行委員会に委員として参加
- (エ) その他（動画配信やネット上でのアンケート等を実施）

エ 保育協議会

- (ア) 総会 1回（5月15日）
 - (イ) 代表者委員会 6回（4月27日、6月22日、8月27日、10月14日、1月19日、3月8日）
 - (ウ) 保育研修会 2回（1月19日、2月10日）
 - (エ) 第48回川崎市保育まつり（収録・配信）
 - (オ) 第39回川崎市保育研究大会 1回（11月1日～11月30日）
 - (カ) 全国・関東ブロック等保育組織関係参加会議等
 - a 全国保育協議会協議員総会 3回（5月21日、9月6日、2月17日）
 - b 全国保育組織正副会長会議 1回（12月1日）
 - c 関東ブロック保育協議会会長会 5回（5月18日、6月11日、9月9日、11月26日、3月1日）
 - d 第61回関東ブロック保育研究大会 1回（7月1日～7月31日）
 - e 関東ブロック保育事業連絡協議会 1回（9月9日）
 - f 関東ブロック保育協議会「保育士の専門性を高める研修会」
- ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

オ 老人福祉施設協議会

- (ア) 施設長会 6回（4月21日、6月16日、8月25日、10月20日、12月15日、2月16日）
- (イ) 正副会長等会議 6回（4月7日、6月1日、8月4日、10月7日、12月1日、1月26日）
- (ウ) 災害プロジェクト委員会 4回（6月9日、8月5日、11月24日、1月25日）
情報交換会 1回（9月2日）
災害に関する研修会 1回（12月2日）
- (エ) 人材プロジェクト委員会 6回（5月19日、7月28日、9月14日、11月17日、1月17日、3月24日）
田園調布学園大学オープンキャンパス 1回（6月6日）
川崎市立橘高校校内企業説明会 1回（6月11日）
ハローワーク説明会 4回（5月28日、10月11日、10月22日、1月28日）
- (オ) 前年度決算に基づく特別養護老人ホーム収支状況調査
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- (カ) 関東ブロック・首都圏・神奈川県等老人福祉組織関係参加会議等
 - a 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会代表者会 2回（6月15日、12月18日）
 - b 首都圏高齢者福祉協議会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
 - c 神奈川県社協老人福祉施設協議会総会 2回（書面、3月10日）

- d 神奈川県社協老人福祉施設協議会委員会 4回（5月20日、10月26日、2月14日、3月10日）
- e 神奈川県社協老人福祉施設協議会研修会 1回（3月10日）
- f 第19回かながわ高齢者福祉研究大会・関東ブロック老人福祉施設研究総会合同大会 1回（6月30日～7月31日）
- g 神奈川県老人福祉施設協議会課題別プロジェクト会議 9回
介護報酬改定（5月31日、10月22日、2月18日）
人材確保（7月14日、9月30日、3月10日）
災害（12月16日、1月20日、2月9日）

カ 障害者福祉施設協議会

- （ア） 施設長会 4回（5月27日、8月23日、12月9日、3月10日）
- （イ） 正副会長会議 4回（4月28日、5月7日、12月9日、3月10日）
- （ウ） 障害福祉施設関係者等研修会 1回（2月28日）
- （エ） 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会
a 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会 1回（11月18日）
b プレ交流会 1回（10月25日）

キ 児童・母子福祉施設協議会

- （ア） 総会・施設長会 4回（5月18日、6月28日、9月29日、2月14日）
- （イ） 正副会長会議 1回（12月13日）
- （ウ） 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会 1回（7月14日）
- （エ） 職員交流会
a 実行委員会 6回（7月29日、8月31日、9月22日、10月5日、11月2日、12月7日）
b 職員交流会 1回（11月29日）
- （オ） 研究発表会
a 事前発表会 1回（2月28日）
b 研究発表会 1回（3月8日）

ク 川崎市民間社会福祉施設連絡協議会【再掲】 ⇒6－（3）－ア

ケ 民生委員児童委員部会

- （ア） 部会議 2回（5月31日※書面開催、3月22日）
- （イ） 代表者会議 3回（5月17日、1月11日、3月4日）
- （ウ） 正副部会長会議 1回（10月5日）
- （エ） 研修会 1回 民生委員児童委員部会研修会
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演のDVDを作成し各区に送付

コ 保護司部会

- （ア） 部会議 1回（5月25日※第8種会員会議と併せて書面審議にて開催）
- （イ） 代表者会議 2回（4月16日、3月17日）
- （ウ） 研修会
保護司部会研修会
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演のDVDを作成し各区に送付

サ 障害者団体部会

- (ア) 団体部会 4回(5月25日、8月17日、11月25日、2月8日)
- (イ) 正副部会長会議 4回(5月9日、8月17日、11月25日、2月8日)
- (ウ) 障害者団体リーダー研修 3回(10月6日(午前・午後)、2月25日)

シ ボランティア団体部会

- (ア) 部会議 5回(4月15日、7月6日、9月28日、11月15日、3月23日)
- (イ) 研修会「災害ボランティアセンターについて」(講義)
「災害ボランティアセンターマッチングコーディネート」(演習)

(2) 各種委員会、種別会員会議の開催

ア 種別会員会議

- (ア) 第6種会員会議 2回(6月2日、11月9日)施設部会と併せて開催
- (イ) 第8種会員会議(5月25日)保護司部会と併せて書面審議にて開催

(3) 全国、関東ブロック、県、指定都市で開催される関係会議への参加、協力

ア 都道府県・指定都市社会福祉協議会部・課・所長会議

(5月13日※オンライン)

イ 都道府県・指定都市社会福祉協議会生活福祉資金担当部・課・所長会議

(5月27日・6月16日※オンライン)

ウ 都道府県・指定都市社会福祉協議会常務理事・事務局長会議

(7月13日、1月28日※オンライン)

エ 指定都市社会福祉協議会・民生委員児童委員連盟連絡協議会

(7月15日～16日※書面審議)

オ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会総務部課長会議

(7月15日※オンライン)

カ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会常務理事・事務局長会議

(10月15日※書面審議)

キ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会会長会議

(12月17日※書面審議)

ク 春季関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会組織・ボランティア業務担当・部課長会議

(6月25日※オンライン)

ケ 秋季関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会組織・ボランティア業務担当者研究協議会

(11月16日※オンライン)

コ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会会長会幹事会 2回

(5月17日、3月4日※オンライン)

サ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会事務局長会幹事会 2回

(5月13日、2月21日※オンライン)

- シ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会会長会全体会 2回
(6月30日、3月9日※書面審議)
- ス 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会事務局長会全体会 1回
(6月11日※オンライン)
- セ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会常務理事・事務局長会議
(12月14日※オンライン)

(4) 第63回大都市社会福祉施設協議会(川崎市大会)の開催

- ア 実行委員会 5回(6月2日、9月16日、12月15日、1月18日、3月1日)
- イ 準備会 2回(7月20日、12月17日)
- ウ 第63回大都市社会福祉施設協議会(川崎市大会) 1回(2月4日)

(5) 第48回川崎市保育まつり

映像配布(DVD)及びYouTube配信(視聴対象者、期間限定)による実施。

(6) 障害者の日キャンペーン事業

- ア 障害者週間街頭キャンペーン事前準備 11月25日
- イ かわさきFM出演 キャンペーン広報 1回 11月26日
- ウ 障害者週間啓発用ポスター・パネル掲示
 - (ア) JR南武線主要5駅構内 12月1日~12月8日
 - (イ) 総合福祉センター内 12月3日~12月9日
- エ JR川崎駅アゼリアビジョンでの広報 11月26日~12月2日
- オ JR川崎駅河川情報表示板での広報 12月3日~9日
- カ 障害者週間街頭キャンペーン 12月4日
川崎駅・武蔵溝の口駅、新百合ヶ丘駅で団体紹介リーフレット入りティッシュを配布 4,000個

(7) 子ども虐待防止運動事業

- ア 実行委員会 4回(7月26日、9月1日、10月11日、12月10日)
- イ オレンジリボンたすきリレー ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ウ 啓発活動
 - (ア) オリジナルチラシ・ポスターの配布
 - (イ) オリジナルデザイン缶バッジの配布
 - (ウ) 川崎市内スポーツチームを通じての広報
 - (エ) ホームページ、SNSを活用した広報
 - (オ) 他機関と連携した広報啓発

8 福祉基金運営事業【1, 908千円】

【寄附・利息等収入 1, 908千円】

(1) 福祉基金の運営

福祉基金運営委員会 2回(8月25日、3月14日)

(2) 令和3年度福祉基金状況

ア 寄付金額総額 269,042円(6件)
(令和2年度 271,000円(3件))
イ 年度末基金残高 336,998,615円
(令和2年度 335,211,163円)

(3) 福祉基金による団体等助成【再掲】 ⇒6-(8)

9 資金貸付事業【2, 956千円】

【サービス区分事業活動支出 2, 956千円】

(1) 社会福祉事業振興資金の償還業務(貸付は平成27年度に終了)

償還状況(臨時費7件 計4, 726, 300円 償還率100%)

(2) 川崎市社会福祉法人経営改善支援事業

ア 経営改善相談 6件
イ 経営健全化計画の作成支援 作成件数なし
ウ 社会福祉施設運営費の融資 貸付件数なし
エ 社会福祉法人経営改善支援事業通信の発行 年4回
オ 社会福祉法人会計実務担当者向け研修会の実施
2回(12月1日、3月2日) 参加者延べ114名

10 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動(年末たすけあい運動含む)への協力

	R3	R2
一般募金全市実績額(円)	75,810,714	78,707,484
年末たすけあい募金全市実績額(円)	51,837,469	51,666,184

(2) 共同募金配分金事業

【共同募金配分金 59, 554千円】

ア 法人運営事業 【1, 067千円】
イ 調査研究事業 【36千円】
ウ 研修事業 【447千円】

エ 企画・広報事業	【 3, 5 6 4 千円】
オ 区社協推進事業	【 1 1 9 千円】
カ 部会・委員会事業	【 1, 8 1 5 千円】
キ 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働	【 4 9 5 千円】
ク 区社協活動費助成金事業	【 5 0, 6 8 8 千円】
ケ その他、地域福祉の推進のための事業	【 1, 3 2 3 千円】
（ア）子育て支援事業	
（イ）児童福祉週間施設訪問事業	
（ウ）敬老祝い金品贈呈事業	
（エ）障害者団体等活動助成事業	

1 1 受託事業【1 3 3, 4 3 6 千円】

（1）福祉パル受託事業（各区1箇所 計7箇所）

【サービス区分事業活動支出 1 8, 6 7 1 千円】

ア 地域福祉活動の拠点施設である市内7区の福祉パルの管理運営を川崎市から受託

（ア）活動拠点の管理運営による、地域福祉活動やボランティア活動の推進・支援

a 研修室 年間利用数 2, 3 9 3 件（全市）

b ボランティアコーナー 1, 1 9 5 件（全市）

（イ）備品の刷新や修繕等に関する、川崎市・区社協との連絡調整

（2）福祉人材バンク事業

【サービス区分事業活動支出 3 5, 1 5 5 千円】

ア 福祉の仕事の相談と求人票の閲覧、紹介

	R3実績	R2実績
就職件数（件）	23	8

（ア）年間有効求人延べ数 1 0, 2 2 3 件

（イ）年間有効求職延べ人数 1, 2 3 7 件

（ウ）就職件数 2 3 件

（エ）福祉の仕事に関する相談件数 1, 6 0 1 件

（オ）求職者スカウトサービスの実施

a スカウト件数 2 2 件

b 応募数 1 4 件

イ 福祉のお仕事就職・転職フェア（就職相談会）の開催

1 回（8月19日⇒新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止、2月5日実施）

	R3実績	R2実績
来場者数（人）	25	0

延べ面談数 3 9 件 就労予定人数 0 名

代替取組

(ア) 民間就職フェアへの参加【新規】

福祉の仕事説明及び川崎市内求人案内 2回(4日) 50名参加

会場来場者数：学生・第2新卒約729名

転職希望者196名

(イ) 経済労働局主催の就職フェアへの参加【新規】

福祉の仕事説明及び川崎市内求人案内

2月9日 ⇒新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止

※参加申込者に人材バンクリーフレットの配信 オンライン相談3件

ウ 福祉人材確保のための研修会の開催

	R3実績	R2実績
各種研修会等の開(回)	8	14
参加者数(延べ人数)	12	196

(ア) 福祉人材確保事業

a 医療技術再確認研修

川崎市立川崎病院の認定看護師勉強会 全8回 288名参加

(前年 全5回 109名参加) オンライン形式で開催

b 福祉職のための出張講座(出張依頼ごと) 全0回 0名参加(前年6回 34名参加)

(イ) 福祉人材確保、定着事業

a 採用担当者向けセミナー 2回 61名参加

b 福祉のお仕事なるほどセミナー 1回 15名

(8月19日⇒新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止、2月5日実施)

c ホームヘルパーお仕事講座 全1回 9名参加

(中原区開催9月15日⇒新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止

多摩区開催11月17日：9名参加)

エ 福祉職に係る就労支援事業の実施

福祉施設見学バスツアー(学生向け) ⇒ 3月28日

新日本学園(児童養護施設)、すこやか高津保育園) 16名参加

オ 関係機関及び福祉関係の学校等との連携

(ア) かながわ福祉人材センターが主催する福祉のしごとフェア

(就職相談会・就職ガイダンス) 3回

(イ) かながわ福祉人材センター運営委員会 3回

(ウ) ハローワーク川崎・ハローワーク川崎北との連携

ハローワーク川崎 求職者向け福祉の仕事説明会 全3回 63名参加

ハローワーク北【新規】 全1回 19名参加

(エ) 川崎市社会福祉協議会老人福祉施設協議会人材プロジェクト委員会 6回

人材発掘ワーキング5回

(オ) 川崎市こども未来局との連携

養成校における保育のお仕事相談及び広報啓発 3回 372名参加

(カ) 学校連携及び学内就職ガイダンスへの協力

a 学内就職ガイダンス等への協力 3回 123名参加

b 川崎市教育委員会との連携

インターンシップ受け入れの検討

養護学校進路相談の検討

カ こころの健康相談室『ふぉーえむ』の実施及びメンタルヘルス研修の開催

(ア) メンタルヘルス相談 (月2回～3回 不定期 月・金曜日) 延べ54件 (前年度28件)

(イ) メンタルヘルス研修会 3回4日 延べ23名参加 (前年度28名)

(ウ) 広報紙「ふぉーえむのご案内」の発行 2回

キ 川崎市福祉人材バンク運営委員会の開催 2回 (7月13日、3月16日)

※第1回は書面開催、第2回はオンライン又は会場参加

ク 広報

(ア) 求人情報紙の発行 毎月1回発行

(イ) 人材バンク ホームページ・フェイスブック等の運営

a 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 川崎市福祉人材バンク

ホームページ (<http://www.csw-kawasaki.or.jp/jinzai/index.html>)

b 福祉のお仕事 ホームページ (福祉人材情報システム)

(<https://www.fukushi-work.jp/>)

c 川崎市福祉人材バンク フェイスブック

(ウ) メールによる情報提供、利用案内等の発信 (求職登録者・求人事業者向け送信)

(エ) 人材バンクリーフレットの製作・配布

(オ) 介護冊子配布

(カ) 川崎市社協広報誌

(キ) 川崎市広報協力依頼 川崎市地域ポータルサイト、川崎市公式ツイッター、
各区役所サイネージ、アゼリアビジョン

(3) 生活福祉資金貸付事業

【サービス区分事業活動支出 21,426千円】

ア 貸付決定件数 (特例貸付を除く) 162件

イ 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付決定件数 19,137件

ウ 生活福祉資金貸付事業担当者会議 3回

(4) 福祉サービス受託事業

【サービス区分事業活動支出 58,184千円】

ア 要介護者生活支援ヘルパー派遣事業の実施及び総合的管理運営

年間派遣利用者数 49名

派遣時間 (年延べ数) 375時間

イ ねたきり高齢者等紙おむつ及び日常生活用具給付事業の管理運営

紙おむつ給付等介護用品給付 (月平均利用者数) 3,964名

日常生活用具給付 (新規給付件数) 延べ9名

- ウ 生活支援型食事サービス事業の総合的管理運営
 - 利用者数（月平均） 10名
 - 食数（月平均） 208食 （年延べ数） 2,491食
- エ 緊急通報システム事業の管理運営
 - 自宅設置型サービスの利用者数（月平均） 656名
 - 携帯型サービスの利用者数（月平均） 1,000名
- オ 高齢者外出支援サービス事業の管理運営
 - 登録者数 483名（令和3年3月現在）
 - 利用件数（年延べ数） 1,757件
 - 事業運営委員会の開催 0回（新型コロナウイルス感染防止のため開催中止）
- カ 重度障害者訪問看護サービス等支援事業の総合的管理運営
 - 派遣世帯数（年延べ数） 171世帯
 - 派遣回数（年延べ数） 478回

12 ボランティア活動振興センター事業【11,187千円】

【サービス区分事業活動支出 11,187千円】

（1）運営委員会の開催

- ア 運営委員会 2回（6月7日～7月5日、3月8日※第1回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面審議）

（2）相談・情報提供事業及び調査・研究

- ア ボランティアコーディネート業務
 - （ア） ボランティア募集の依頼 43件（令和2年度 41件）
 - （イ） ボランティア活動希望への相談・情報提供 67件（令和2年度 60件）
 - （ウ） ボランティアによる支援 9件（令和2年度 6件）

イ ボランティアグループ等の把握及び情報提供

- （ア） ボランティア体験紹介冊子「ボラ・ナビ2022」の発行 2,500部
（公益財団法人かわさき市民活動センターとの共同発行）

ウ ボランティア担当者会議の開催 6回

エ 電話相談実務者研修（2月18日）オンライン開催 参加者41名

（3）広報・啓発

ア ウェブサイト並びに紙媒体等におけるボランティア関連情報の提供

- （ア） ホームページの管理
 - a 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 ホームページ
 - b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ
- （イ） ボランティア関連情報冊子の発行
 - a 川崎市内ボランティア団体・個人活動紹介カード集の発行 90団体
 - b 「こどもの居場所活動紹介ガイドブック」の発行 2,300部

イ ボランティア交流室の貸出 301件

(4) ボランティア育成支援

ア ボランティアコーディネーター研修の開催

(ア) 「コロナ禍のボランティアコーディネート」(1月27日) 参加者16名

(イ) 「災害ボランティアセンターマッチング体験～被災者支援のあり方を考える～」

(3月4日) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

イ ボランティア・市民活動団体のためのパワーアップセミナーの開催

(ア) 「どうする？withコロナ⇔afterコロナの市民活動と組織運営」

(1月15日) 参加者7名

(イ) 「対立から対話へすすめる組織のカタチ」 (3月5日) 参加者12名

(5) 福祉教育の推進

ア 福祉教育推進会議の開催 3回(6月3日、7月20日、3月15日)

イ 福祉教育研修の開催(市内小学校・中学校福祉教育担当教諭向け)(8月19日)

参加者 21名

ウ 川崎市内郵便局社員研修の講師協力 6回(5月18日、7月13日、9月16日、11月17日、1月19日、3月15日) 参加者 延べ440名

(6) 高齢者ふれあい活動支援事業【再掲】 ⇒6-(4)

(7) 災害ボランティア関連

ア 川崎市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練(担当区社協との共催)及び職員及び関係機関向け研修会の開催

(ア) 災害ボランティアセンター設置運営訓練 11月14日

イ 特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえと共催で、防災研修・訓練の開催

(ア) こども食堂防災研修・訓練 12月2日

(8) 市内ボランティア活動推進機関との連絡調整及びネットワークの推進

各区社協や公益財団法人かわさき市民活動センターなど関係機関(中間支援組織)との連携を図り、全市におけるボランティア活動の推進、ネットワーク体制の構築を進めた。

(9) 企業・関係団体における助成金情報の提供・支援

市内外の企業・関係団体からの助成金情報をホームページ、SNSや紙媒体において広く周知した。

(10) 全国・関東ブロック・県・市外関係機関との各種連絡調整、各種研修会等への参加

関係機関が主催するボランティア関連の会議や研修会に参加。

13 あんしんセンター事業【132,560千円】

【サービス区分事業活動支出 132,560千円】

(1) 権利擁護にかかわる相談

相談件数 9,373件（初回相談 1,077件、継続相談 8,296件）

（※令和2年度相談件数 17,216件／初回相談548件、継続相談16,668件）

(2) 日常生活自立支援事業

ア 相談件数

相談件数 7,973件（初回相談 322件、継続相談 7,651件）

※4月～6月成年後見問合せ件数 60件（初回 32件、継続 28件）

イ サービス契約者数（令和3年度末の継続利用者数）

	R3実績	R2実績
書類預かりサービス利用者数（人）	32	32
金銭管理サービス利用者数（人）	139	488

※生活保護受給者の川崎市被保護者金銭管理等支援事業への移行による契約者減

(3) 契約能力判定審査会の運営

ア ケース検討会議の開催 21回

（ア）新規利用申込件数 合計 59件

（イ）継続利用者の処遇 合計 7件

イ 契約能力判定審査会の開催 6回（5月20日、7月8日、9月9日、11月11日、1月20日、3月10日）（5月20日、9月9日、1月20日、3月10日は書面表決）

（ア）諮問件数 合計 5件

（イ）報告件数 合計 125件

(4) 業務監督審査会の運営

ア 業務監督審査会の開催 （5月20日、7月8日、9月9日、11月11日、1月20日、3月10日）（5月20日、9月9日、1月20日、3月10日は書面表決）

（ア）諮問件数 合計 3件

（イ）報告件数 合計 264件

(5) 専門員及び生活支援員等研修の実施

ア 生活支援員研修

（ア）生活支援員研修 2回（12月13日、12月14日 受講者延べ33名
内リモート参加者6名）

イ 専門員研修

（ア）新任専門員研修 4回（4月5日、6月3日、11月2日、2月8日受講者4名）

（イ）専門員研修2回（9月24日、10月13日、受講者延べ14名）

(6) 成年後見事業（法人後見）

- ア 法人後見新規受任件数 4件 （※令和2年度 1件）
- イ 令和3年度末の法人後見受任継続件数 43件 （※令和2年度末 43件）

(7) 成年後見制度連絡会の開催

- ア 成年後見制度連絡会の開催 2回（6月24日、11月2日）

(8) 川崎市成年後見支援センターの運営

ア 広報事業

- (ア) 市民向けリーフレット及び成年後見制度パンフレットの作成・配布
- (イ) 成年後見制度シンポジウムの開催（10月16日） 参加者 40名
- (ウ) 市民向け研修会 2回（9月17日、1月22日） 受講者 延べ76名
- (エ) 支援関係者向け研修 2回（7月19日、11月19日） 受講者 延べ125名
- (オ) 成年後見制度に関する出張講座（区あんしんセンター）
27回派遣 延べ470名参加

イ 相談事業

- (ア) 職員による相談件数1,340件（初回相談 723件、継続相談 617件）
（※7月～3月）
- (イ) 法律・福祉の専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）による専門相談
（9月～3月） 34件
- (ウ) 支援チームへの法律・福祉の専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）派遣
（9月～3月） 3件
- (エ) 支援チーム等への申立支援 69件

ウ 成年後見制度利用促進事業

- (ア) 申立書書き方講座（7月19日） 受講者67名
- (イ) 後見人候補者選定支援 「専門職後見人等のご案内」チラシの作成・配布、受任調整会議の実施（12月23日プレ会議実施）
- (ウ) 市民後見人の養成と支援
 - a 市民後見人推進委員会 3回（5月24日、10月25日、2月10日）
 - b 市民後見人受任調整会議 2回（6月22日、10月25日）
 - c 市民後見人実務研修の実施 修了者12名（内12名が名簿登録）
 - d 市民後見人フォローアップ研修 2回（10月27日、3月4・18日（同内容を2回実施））
 - e 市民後見人への活動支援 適宜（電話、メール、来所等による支援）
 - f 市民後見人受任状況 受任依頼2件、受任 2件、未受任 0件、終了 5件
令和4年3月末現在11名受任中

エ 後見人支援事業

- (ア) 親族後見人向け研修（11月29日） 受講者4名

オ その他

- (ア) 川崎市成年後見制度利用促進協議会 2回（11月16日、3月17日）

(9) その他

ア 権利擁護事業の普及啓発

(ア) 川崎市あんしんセンターパンフレットの配布 (随時)

(イ) 市民及び福祉関係者等研修への権利擁護事業講師派遣

イ 「日常生活自立支援事業」実施状況調査

かながわ福祉サービス運営適正化委員会運営監視委員会による調査

(ア) 区実施状況調査 宮前区 10月4日

(イ) 実施状況ヒアリング 2月4日

ウ 区あんしんセンター事業実施調査

(ア) アンケート調査 (12月～1月に実施)

(イ) 現地調査 (6区社協)

エ 日常生活自立支援事業実施における、区社会福祉協議会への支援

(ア) あんしんセンター連絡会議の実施 10回 (4月19日、6月21日、7月26日、8月16日、9月21日、10月18日、11月15日、12月20日、1月17日、3月14日)

(イ) 相談に対する助言

オ 日常生活自立支援事業実施主体連絡会 6月22日

カ 法人後見実施社協連絡会 (神奈川県内の法人後見実施社協と県社協の情報交換会)

1回 2名参加

14 地域生活支援SOSかわさき事業【239千円】

【サービス区分事業活動支出 239千円】

	R3実績	R2実績
参加法人	31法人	30法人
連携ネットワーク会議	5回	1回

(1) 連携ネットワーク事業の開催

ア 担当者会議の開催 (中原区: 1月28日、高津区: 3月24日、宮前区3月2日、多摩区: 2月25日、麻生区: 3月23日)

イ 相談対応

(2) 会員間が情報共有できる仕組みづくり

ア 会員間における地域における公益的な情報共有ツールとしたグループウェアの運営

(3) 地域向けに「公益的取組」の広報啓発

グループウェアを通じて、公益的取組に関わる情報を随時発信

(4) 食糧支援かわさきの実施

ア 食糧支援かわさき実績（令和4年3月31日現在）

（ア）食糧の提供（企業・施設・市民等） 約20,500品（令和2年度からの累計）

（イ）食糧支援実績 約2,700世帯（令和2年度からの累計）

（ウ）日用品の提供 約550品

（エ）日用品支援実績 約400品

（オ）食糧保管拠点 11カ所

イ 市内大学生への食糧支援体制強化

（ア）支援強化期間 令和3年7月～9月

（イ）支援実績 約60名（約500食）

ウ ひとり親家庭応援（令和4年1月18日）

川崎市母子寡婦福祉協議会において実施する、生活困窮状況にあるひとり親世帯への支援と発見を目的とした食糧配布への協力

（ア）協力内容 : 食糧提供及び仕分け作業

（イ）食糧の提供 約2,300品

（ウ）配布実績 70世帯

エ 関係機関への取り組み周知

食糧支援の取組を知っていただくことを目的に、関係機関向け食糧支援かわさきの取組説明をオンラインにて開催 2回（12月7日、12月8日）

(5) 車椅子貸出事業への協力

新型コロナワクチン接種開始に伴い、各区社協で実施している車椅子の貸出事業への問い合わせ並びに貸出件数が増加ことを受け、車椅子を必要とする市民に貸し出すことができる環境整備に向け、施設で保有する車椅子を一時的に市社協貸し出していただいた。

ア 期間：令和3年6月28日（月）～8月1日（日）

イ 貸出方法：区社協で受付を行い貸出（一部施設では、施設が直接の貸出窓口となり対応）

ウ 借用総台数：47台（19施設）

(6) 川崎区の子どもの食糧支援への協力

SOSかわさき事業会員に呼びかけ、食料運搬や寄付協力支援を実施

15 総合研修センター管理経営事業【101, 664千円】

【サービス区分事業活動支出 101, 664千円】

(1) 人材開発・養成研修事業

- ア 介護職員初任者研修 修了者 12名
- イ 介護職員実務者研修（HAPPY&SMILEとの共催） 修了者 19名
- ウ 福祉職員向け現任研修 36講座 受講者延べ 969名 ※5講座中止
- エ 法人役員・管理者向けセミナー 参加者 21名
- オ 介護福祉士国家試験直前対策講座 1コース 受講者 12名
- カ 認知症介護に関する研修
 - 基礎研修8コース 修了者 239名
 - 実践者研修2コース 修了者 63名
 - リーダー研修1コース 修了者 19名
- キ 重度訪問介護従業者養成研修 修了者 6名
- ク 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 3コース 修了者 116名
実践研修 1コース 修了者 40名
- ケ 行動援護従業者養成研修 修了者 33名
- コ 医療的ケア児等支援者養成研修 修了者 98名
- サ 相談支援従事者に関する研修（初任者研修、現任研修） 7コース 修了者308名
- シ 同行援護従業者養成研修 一般課程 3コース 修了者 49名
応用研修 2コース 修了者 15名
- ス 地域包括支援センター職員向け研修
 - 新任職員研修3会場、現任研修2研修 受講者 145名
 - 予防給付ケアマネジメント従事者養成研修 受講者 36名
- セ 介護支援専門員専門研修課程Ⅰ・更新研修Ⅰ等 1コース 修了者 59名
介護支援専門員専門研修課程Ⅱ・更新研修Ⅱ等 2コース 修了者 137名

(2) 介護普及啓発事業

福祉用具の展示及び講座の実施

(ア) 福祉用具・介護用品の常設展示 41品目

福祉関係図書・DVD・福祉啓発教材・視聴覚機材貸出事業の実施

(イ) 図書及び資料等所有数及び貸出数

a 図書 1, 432冊 貸出実績 168冊

b DVD 195本 貸出実績 8本

(ウ) 社会福祉関係視聴覚機材等所有数 19

その他、事業遂行に関連する会議等への参加、会議等を主催しました。

16 居宅介護等事業【 794,608千円】

【サービス区分事業活動支出 794,237千円】

【サービス区分施設整備等支出 371千円】

(1) 介護保険法に基づく訪問介護及び第1号訪問事業の実施

利用者数 延べ 12,511人/年

サービス提供時間 101,266時間/年

(令和2年度 107,323時間/年)

(2) 障害者総合支援法に基づく居宅介護事業及び地域生活支援事業の実施

利用者数 延べ 3,119人/年

サービス提供時間 31,521時間/年

(令和2年度 33,453時間/年)

(3) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業の実施

ケアプランの作成 延べ 12,050件/年

(令和2年度 11,556件/年)

(4) 自由契約事業（おたっしゅサポート）の実施

利用者数 延べ 2,606人/年

サービス提供時間 6,796時間/年

(令和2年度 2,864時間/年)

(5) 要介護者生活支援ヘルパー派遣事業の受託実施

利用者数 延べ 14人/年

サービス提供時間 110時間/年

(令和2年度 144時間/年)

(6) 福祉住宅等訪問協力員派遣事業の受託実施

市内28館の福祉住宅・シルバーハウジングに訪問協力員の派遣を行った。

(7) 各種研修の実施

ア 主任ヘルパー研修 2回

イ 介護支援専門員研修 2回

ウ ヘルパー現任研修（各事業所において実施）

エ かわさき暮らしサポーター養成研修 2回（10月12日、12月17日）

オ ホームヘルパー普及啓発活動 市内のホームヘルパーの確保を図るため、福祉人材バンクと連携し、「ホームヘルパーのお仕事講座」を実施し、ホームヘルパーの魅力等を伝える啓発活動を行った。 1回（11月17日）

17 老人いこいの家管理経営事業【204, 357千円】

【サービス区分事業活動支出 204, 357千円】

「老人いこいの家」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。
(市内48箇所)

(1) 年間利用者数 311, 415名

(2) 会議

ア 老人いこいの家調整担当者・地域課長会議 1回(11月5日)

18 老人福祉センター管理経営事業【284, 189千円】

【サービス区分事業活動支出 282, 852千円】

【サービス区分施設整備等支出 1, 337千円】

「老人福祉(・地域交流)センター」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。(市内7箇所)

(1) 年間利用者数 149, 702名

(2) 所長会・担当国会議 17回

・所長会議 5回 ・事務担当国会議 7回
・看護職会議 2回 ・講座・行事担当国会議 2回 ・生活相談員会議 1回

19 公益事業

(1) 川崎市総合福祉センター事業【194, 902千円】

【サービス区分事業活動支出 194, 761千円】

【サービス区分施設整備等支出 141千円】

ア 施設・設備の利用提供事業

(ア) ホール、大会議室、第1・2・3会議室、和室の提供

a 年間利用件数 3, 318件(令和2年度 2, 047件)

b 利用人数 256, 661名(令和2年度 143, 529名)

イ 地域福祉情報バンク事業

(ア) 総合相談事業(ふくし相談・専門相談)

a ふくし相談事業 520件(令和2年度 544件)

b 情報バンク 336件(令和2年度 303件)

c 専門相談 84件(令和2年度 72件)

d 総合相談支援システムの円滑な運用

(イ) 地域福祉活動に関する情報の収集・管理・配信(かわさき福祉情報サイトふくみみ)

a ボランティア・市民活動団体実態調査 460団体を対象に実施

b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ

- c 地域福祉情報バンク通信の発行 (季刊 各7, 000部)
- d かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック
- e 情報提供検索用パソコンの利用の貸出
- f ふくみみパンフレット配布 795部
- g 情報バンク広報活動強化のため、広報啓発グッズの作成と区社協窓口等配布
- h YouTube「川崎市社会福祉協議会 地域福祉情報バンクふくみみ」の配信

(ウ) 社会福祉専門書・DVDの貸出及び資料の整備・蔵書データベースの運用

- a 図書貸出 1591件 DVD貸出 169件
- b コピー機貸出 (一般利用可能) 33人
- c 車いす貸出 6件 (18台)
- d 高齢者疑似体験セット貸出 6件 (27セット)
- e 妊婦体験セット・抱き人形貸出 4件 (10セット)
- f 視聴覚障害者体験セット貸出 0件 (0セット)
- g ボッチャボールセット 9件 (14セット)

	R3実績	R2実績
新規貸出登録者数 (人)	85	54
図書・DVD貸出件数 (件)	1,760	1,129

ウ 地域包括ケア推進を目的に、地域住民を対象とした研修事業

- (ア) 地域包括ケア推進研修 7テーマ9回実施 受講者延べ274名 (視聴121回)
- (イ) 地域課題研修 5テーマ8回実施 受講者延べ122名 (視聴14回)
- (ウ) 地域活動促進研修 5テーマ9回実施 受講者延べ194名 (視聴627回)

	R3実績	R2実績
研修件数 (件)	26	26
受講者数 (人)	590	498

(2) 川崎市高齢者外出支援乗車事業【2, 847, 367千円】

【サービス区分事業活動支出 2, 846, 878千円】

【サービス区分施設整備等支出 489千円】

ア 販売実績 延べ138, 048件

- (ア) 川崎区 43件
- (イ) 幸区 4, 893件
- (ウ) 中原区 467件
- (エ) 高津区 832件
- (オ) 宮前区 3, 464件
- (カ) 多摩区 3, 415件
- (キ) 麻生区 745件
- (ク) その他バス事業者等 124, 189件

	R3実績	R2実績
年間延べ交付枚数 (枚)	138,048	135,981

イ 事業者会議 1回（3月15日）

（3）地域包括支援センター事業（大師中央・溝口・登戸）【126,044千円】

【サービス区分事業活動支出 126,044千円】

ア 総合相談支援業務

総相談件数

（ア） 大師中央 2,343件

（イ） 溝口 3,377件

（ウ） 登戸 2,084件

イ 権利擁護業務

権利擁護関連相談件数

（ア） 大師中央 122件

（イ） 溝口 112件

（ウ） 登戸 73件

ウ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

地域ケア会議の開催

（ア） 大師中央 圏域会議（書面会議）1回（3/31）

個別ケア会議2回（9/21、11/19）

（イ） 溝口 圏域会議2回（7/26、11/25）

個別ケア会議2回（2/24、2/25）

（ウ） 登戸 圏域会議1回（3/15 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面開催）

個別ケア会議6回（4/9、5/18、6/9、7/19、11/2）

エ 介護予防ケアマネジメント業務

介護予防プラン作成数

（ア） 大師中央 1,973件（外部委託分 696件含む）

（イ） 溝口 2,158件（外部委託分 820件含む）

（ウ） 登戸 2,788件（外部委託分1,242件含む）

オ 川崎市高齢者福祉サービスの利用調整

介護保険サービス外の相談件数

（ア） 大師中央 826件

（イ） 溝口 1,441件

（ウ） 登戸 956件

（4）川崎市内の保育士人材確保を目的とした保育士修学資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 54,184千円】

ア	修学資金	貸付人数	62名	貸付決定額	58,140,000円
イ	入学準備金	貸付人数	27名	貸付決定額	5,340,000円
ウ	就職準備金	貸付人数	55名	貸付決定額	10,900,000円
エ	生活費加算	貸付人数	0名	貸付決定額	0円

(5) ひとり親家庭の自立の促進を図ることを目的としたひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 9, 414千円】

ア	入学準備金	貸付人数	3名	貸付決定額	1, 500, 000円
イ	就職準備金	貸付人数	12名	貸付決定額	2, 400, 000円
ウ	住宅支援資金	貸付人数	16名	貸付決定額	1, 296, 800円

20 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働【495千円】

【共同募金配分金 495千円】

(1) 川崎市民生委員児童委員協議会との協働及び助成事業の実施

21 災害活動関連事業

(1) 災害活動基金の管理

ア	寄付額	0円
イ	支出額（災害ボランティアセンター設置に係る経費）	0円
ウ	令和3年度末残高	33, 490, 779円
	（令和2年度末残高	33, 490, 779円）

(2) 事業継続計画と職員行動マニュアルの定期的な検証

各部署に設置し、4月に見直しを行った（定期実施）

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

職員用災害時備蓄（80名×3日分以上）

(4) 災害発生時、川崎市との協定に基づく帰宅困難者の一時的な受け入れ

- ア 帰宅困難者の一時的な受け入れ 無し
- イ 帰宅困難者対策用備蓄物資の保管

22 その他

(1) 児童福祉施設訪問事業の実施

- ア 児童福祉週間（5月5日～11日）
 - （ア）ポスターの掲示 川崎市総合福祉センター及び各区福祉パル
- イ 児童福祉施設訪問
 - ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
 - プレゼントとメッセージカードを送付

(2) 高齢者福祉施設訪問事業の実施

ア 高齢者施設訪問

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

プレゼントとメッセージカードを送付

(3) #Share Smile かわさき 心のキョリは離れない～今できること～

新型コロナウイルス感染症の影響による地域住民や関係機関・団体から寄せられた困りごとや支援をしたいという声をつなぐための取組を実施

ア 食料支援かわさき【再掲】 ⇒ 14- (4) ア

イ 市内大学生への食糧支援体制強化 ⇒ 14- (4) イ

ウ 食糧支援かわさき＋ひとり親家庭応援【再掲】 ⇒ 14- (4) ウ

エ 車椅子貸出事業への協力 ⇒ 14- (5)

オ Withコロナ地域福祉活動ヒント集～9つのルール～発行

カ オリジナルステッカー配布

(4) 川崎市社会福祉協議会と市長との意見交換会

市社協若手職員が、川崎市行政のトップである市長に、実践取組、課題、今後の展開や方向性などを直接伝え、川崎市とのパートナーシップの強化に努めた。(6月15日)

(5) 常務理事と職員との意見交換会

①職員との意見交換会 10回(川崎区：9月2日 幸区：9月22日 中原区：9月29日
高津区：8月17日 宮前区：8月4日 多摩区：8月12日 麻生区：9月8日 市社協：8月5日、8月23日 研修センター：8月24日)

②課長級職員との意見交換会 3回(9月27日、10月14日、10月21日)

③次年度の事業方針と事業展開を考えるミーティング(1月11日)

(6) 情報共有の場

第5期地域福祉活動推進計画(具体的取組⑦)の社協における相談機能強化の取組に基づき、市社協・区社協における各事業の方針や方向性の共通理解と、事業に関わる意識の共有を図ると同時に、組織が抱える課題の発掘、解決に向けた検討の場として設置

3回(11月19日、12月27日、3月16日)

(7) 新たな寄付形態の導入

自主財源確保に向けた一つの手法として、ソフトバンクが提供する「つながる募金」の仕組みを導入

(8) つながりサポート品(生理用品)配布事業への協力

川崎市(川崎市男女共同参画センター)が実施する事業に対して、生理用品の配布場所として協力

配布数 217セット

川崎市川崎区社会福祉協議会

令和3年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地区社協活動の支援・援助

地域支え合い活動助成金を交付し、地区社会福祉協議会の活動を支援しました。地区社協が主体となり、地域福祉懇談会、テーマ別の研修会、見守り活動、認知症予防を目的としたサロンなど、地区ごとに独自性のある事業が展開されました。

2 総合相談支援事業

生活相談等、年間を通じて18件の相談を受け、様々な関係機関と連携しながら、必要な情報提供、適切な機関へつなぐ等の支援を行いました。

十分な食事をとることが出来ない子どものいる家庭に対して、行政等の関係機関や川崎市社協が行う「地域生活支援SOSかわさき事業」と連携し、子どもの食糧支援を行いました。

3 災害支援の取組み

川崎市総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの運営訓練を行うとともに、運営方法を確認しました。また、川崎区総合防災訓練に参加して、災害ボランティアセンターのチラシ及び令和元年度台風19号による社会福祉協議会の対応に関するチラシの配布、災害時のボランティア活動に関するパネルの展示を通じて、災害ボランティアセンターの働きについて広く周知するとともに災害時のボランティア活動についての理解を深めていただきました。

令和3年度 事業報告

事業報告の内容

川崎市社会福祉協議会 事業費【48,849千円】

【サービス区分事業活動支出 39,712千円】

【共同募金配分金 9,137千円】

1 川崎市社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 4回（5月26日、6月1日、9月30日、2月※書面にて決議）

イ 運営協議会の開催 2回（5月※書面にて決議、3月※書面にて決議）

(2) 令和3年度会員及び賛助会員数

	R3実績	R2実績
会員数	155	133
賛助会員数	2,457	2,829

(3) 種別会議

種別会議の開催 2回（4月※書面にて決議、3月※書面にて決議）

(4) 寄付金品の受け入れ

合計 1,082,388円

2 調査・研究事業

(1) 第5期地域福祉活動計画の進行・管理

ア 常任委員会にて確認（5月26日、6月1日）

イ 会員に計画冊子及び概要版を送付（9月）

(2) 福祉ニーズ調査・検討

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

11月20日（研修会として川崎市社会福祉大会の中で講演会を実施）

常任委員会委員・運営協議会委員参加者 32名（講演会参加者 105名）

4 企画・広報事業

(1) 令和3年度川崎市社会福祉大会の開催

11月20日 参加者105名

(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「ウェーブ」の発行

- ア 広報紙「ウェーブ」年3回 109号(43,000部)、110号(43,000部)、111号(46,000部)発行
- イ リーフレット 1,000部発行

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

- ア ホームページでの情報発信
川崎市社会福祉協議会 ホームページ (<https://www.kawasakiku-shakyo.jp/>)

5 地域福祉活動事業

(1) こども食堂情報交換会のほか、こども食堂を含めたこどもの居場所づくりに関する支援の実施

川崎市社協主催研修への開催協力 1件

(2) 保育物品の貸出

保育物品の貸出 40件

(3) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

キャビネットの貸出し 15団体

(4) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 144件

(5) 福祉用具の再利用

譲ります 20件、譲ってください 8件、成約 6件

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

区内地区社協への助成 計8,240,000円

(2) 社会を明るくする運動への助成

令和3年度は申請なし

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

- ア 会食活動に助成 33 団体 計 3,709,000 円 (区社協助成分含む)
- イ 配食活動に助成 2 団体 計 371,000 円 (区社協助成分含む)
- ウ ミニデイサービス活動に助成 4 団体 計 916,000 円 (区社協助成分含む)
- エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会 (研修会) の開催
2 回 (11月9日、1月12日)

7 連絡・調整事業

(1) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催

地区社協会長連絡会 3 回 (5月13日、7月19日、3月18日)

(2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

8 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末支援金配布 419 世帯 計 2,095,000 円

(2) 障がい者福祉啓発事業 (障がい者福祉に関する講座の開催)

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(3) 子育て支援事業

子育てグループに助成金配布 13 団体 計 311,000 円

(4) ボランティア・当事者団体への活動助成

ボランティア・当事者団体へ助成金配布 28 団体 計 1,901,480 円

(5) 総合相談支援事業

十分な食事をとることの出来ない子どものいる家庭に対して、行政等の関係機関や川崎市社協が行う「地域生活支援 SOS かわさき事業」と連携し、子どもの食糧支援を行った。また、地域で行われているフードパントリー等の活動に協力した。

支援世帯数 93 世帯

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室 238 件、ボランティアコーナー 16 件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

印刷機 95件、コピー機 45件

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 通常貸付（新型コロナウイルス関係を除く）決定件数 42件

イ 特例貸付（新型コロナウイルス関係）決定件数 5,437件

11 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 2回（7月7日、3月※書面にて決議）

(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 24件

イ ボランティア募集の依頼 7件

(3) ボランティア情報誌「いっば」の発行等、広報活動の実施

令和3年度は広報紙「ウェーブ」第110号に特別号として掲載

(4) 各種講座・セミナーの開催

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(5) 福祉教育の推進

ア 福祉教育に関する相談 15件

12 川崎区あんしんセンター事業

区内に在住する認知症高齢者、身体障害者、知的障害者、精神障害者等が、地域の中で安心して自立した生活を送ることができるよう、関係機関と連携を図りながら日常生活自立支援事業を実施した。また、令和3年7月に開設された川崎市成年後見支援センターの相談窓口として、成年後見制度の利用に向けた相談、支援を行うとともに、地域への広報活動を行った。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 2,006件（初回相談48件、継続相談1,958件）

（※令和2年度相談件数 2,909件／初回相談79件、継続相談2,830件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 137件（初回相談67件、継続相談70件）

1.3 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 夜間・休日等施設開放事業

利用人数 計252人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計61,096人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

ア 運営委員会 10回（※内、書面開催8回）

イ 運営委員長会議 1回（3月18日）

1.4 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

販売実績 延べ43件

1.5 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティアセンター

ア 設置運営訓練に参加 11月14日（川崎市総合防災訓練にて）

イ 広報啓発 3月12日（川崎区総合防災訓練にて）

1.6 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会川崎区支会への協力

募金実績 21,135,293円 達成率 67.7%

(2) 川崎区民生委員児童委員協議会

川崎区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力

1.7 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

老人福祉センターとの連携など川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

川崎市幸区社会福祉協議会 令和３年度 事業報告

◆重点事業◆

1 「第５期幸区地域福祉活動計画」に沿った事業の実施

令和３年度から３年間の計画期間、初年度の取り組みとなりました。一部、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止した事業もありましたが、感染症予防対策を徹底し、内容等を都度協議・検討しながら事業を実施しました。

2 住民交流活動拠点の円滑な運営

区内３か所で展開している「陽だまり」の運営を行いました。運営委員会と協議し、感染症予防対策を徹底しました。幅広い世代に利用してもらうための広報を兼ねたイベントや、講座等は、感染予防の観点から実施できませんでした。

3 福祉教育への取り組み強化

学校の総合的な時間に、講師として参加したほか、講師派遣の調整をしました。感染症予防対策のため、地区社協、地区民協等、地域の方一緒に行うことはできませんでした。

疑似体験グッズの貸し出しや団体の紹介等を通して福祉の理解につながるよう努めました。

4 総合相談事業の実施体制の整備

老人いこいの家や、陽だまり等の地域拠点も含め、住民から寄せられる様々な相談をしっかりと受け止め、関係機関等と連携し解決につなげられるように努めました。

地域の大学生を対象とした食糧支援は、地元地域と連携して行いました。

5 安定財源確保と啓発強化

広報紙による寄附の呼びかけを行いました。社協活動の啓発については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、社会福祉大会、幸区民祭が中止となりましたが、作品展示を中心に行ったプラザ祭りで、活動を紹介し啓発活動を行いました。

事業報告の内容

幸区社会福祉協議会 事業費【48,589千円】

【サービス区分事業活動支出 33,562千円】

【共同募金配分金 15,027千円】

1 幸区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 4回（5月25日、6月1日、10月1日※書面決議、
2月25日）

イ 運営協議会の開催 1回（2月9日）

(2) 会員や賛助会員の増強 令和3年度入会会員

ア 正会員 22

イ 賛助会員 4,827

	R3実績	R2実績
正会員数	113	94
賛助会員数	4,827	4,261

(3) 自主財源の確保

寄附金品の受入れ（寄附金 延14件 113,212円／寄附品 延6件）

(4) 社会福祉士相談援助実習の受け入れ

新型コロナウイルス感染症の影響で中止

2 調査・研究事業

(1) 「第5期地域福祉活動計画」に沿った取り組みの実施

総合相談事業からつながった学生向けの食糧支援の実施 2回（12月20日、
12月28日 22件/窓口での対応17件）

(2) 安定した事業運営のための財源確保及び組織体制の検討

地区社協連絡会において、助成金の積算方法等の検討、協議を実施 3回（4月
28日、6月25日、12月13日）

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

ア 常任委員会を対象とした研修会の開催 1回（3月25日）

4 企画・広報事業

(1) 川崎市幸区社会福祉大会の開催

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止したが、区社協研修室において、会長表彰・感謝の表彰式を実施。受賞者に対して区社協会長から表彰状を授与。

(2) 充実した福祉情報を発信するための機関紙「幸区の社会福祉」の発行

ア 機関紙「幸区の社会福祉」 年4回、各26,000部発行
回覧または全戸配付

(3) 情報紙「幸区社協通信」の発行

ア 情報紙「幸区社協通信」の発行 月1回、550部発行

(4) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

ア ホームページでの情報発信
幸区社会福祉協議会 ホームページ (<http://www.saiwaiku-shakyo.jp/>)

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社協との連携

地区社協の定例会等に地域担当職員が出席し情報の共有を図った。また、活動への協力、支援を行った。

(2) 子育て支援事業や会食会等への支援

地区社協等が実施している事業に対し共同募金を財源とした支援を実施。

(3) 地区社協連絡会議の開催

地区社協会長連絡会 3回（4月28日、6月25日、12月13日）

(4) 住民活動交流拠点（陽だまり3か所）の運営

小倉の駅舎陽だまり、塚越の陽だまり、河原町の陽だまりの3か所について、各運営委員会と協力し運営。

(5) 総合相談事業の体制整備

老人いこいの家や陽だまり等の拠点において、利用者からの相談の聞き取りと関係機関等の情報を提供。

(6) 相談を通じた住民の福祉ニーズの把握

年間総相談件数 1,601件

(7) 移送サービス事業の実施

登録会員 6名 年間利用件数 87件 登録ボランティア 19名

(8) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 165件

(9) 高齢者疑似体験グッズ等の福祉用具の貸し出し

ア 小学校への貸し出し 7校

イ その他地域団体への貸し出し 1件

(10) 福祉用具のリサイクル

ア 譲りたい要望 4件

イ 譲ってほしい要望 1件

ウ 譲渡成立件数 1件

(11) 障害者関係等団体との協働

幸区精神保健福祉連絡会に参画し冊子作成に協力

(12) 子育て支援に関する啓発

ア 広報紙等による子育て支援に関する情報提供に協力

イ 幸区こども総合支援ネットワーク会議に参画しこども情報ネットさいわいの編集、発行に協力(43号、44号、45号を発行)

(13) 「みんなで子育てフェアさいわい」への参加・協力

ア 部会出席 4回(6月30日、8月3日、9月8日、2月9日※書面開催)

イ みんなで子育てフェアさいわい

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため開催中止

(14) プラザ祭りの開催

幸区民祭は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催中止となったが、健康福祉プラザにおいて、老人福祉センター、こども文化センターと協働でプラザ祭りを実施。共催団体の作品や活動紹介を展示。

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

地域福祉活動費 計5,814,800円

(2) 共同募金を原資とした助成

会食・配食・ミニデイ実施団体助成 1団体 計80,000円

子育て支援事業実施団体助成 7団体 計350,000円
当事者団体活動助成 2団体 62,000円
ボランティアグループ活動助成 10団体 335,000円

(3) 幸区民生委員児童委員協議会への助成

幸区民児協育成費 計160,000円

(4) 社会を明るくする運動等への助成

社会を明るくする運動 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
リレーカーニバル ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
幸区民祭協賛 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

(5) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ア 会食活動に助成	22団体	計	1,891,000円
イ 配食活動に助成	1団体	計	210,000円
ウ ミニデイサービス活動に助成	3団体	計	195,000円

7 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末慰問金品配分事業

年末慰問金配布 351世帯・計1,755,000円
年末慰問品配布（お茶） 2,670世帯・計1,672,488円

8 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室 306件、ボランティアコーナー 179件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

9 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 区内貸付決定件数	8件
イ 区内特例貸付申請件数	1,759件

10 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 2回（5月21日、2月17日）

(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供	37件（令和2年度	25件）
イ ボランティア募集の依頼	22件（令和2年度	16件）
ウ ボランティアによる支援	2件（令和2年度	11件）

(3) 各種講座・セミナーの開催

ア ボランティア講座の開催

(ア) チャレボラ2021（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止）

※各区主催行事としてできるものは実施

「公園で遊び場づくりのお手伝い&子どもたちと交流しよう」（7月28日）参加者3名

「地域子育て支援センターさいわいのお手伝い&乳幼児と交流」（12月16日）参加者1名

(イ) 「Zoomホスト初挑戦!!」（6月30日）参加者31名

(ウ) 「コロナに罹ったお医者さんのお話」（11月19日）参加者30名

イ ボランティア活動パワーアップセミナーの開催

(ア) 移送ボランティアフォローアップ研修（1月29日、2月1日 ※同一内容）参加者13名

(イ) 移送ボランティア交流会（1月29日、2月1日）参加者12名

(ウ) ボランティア交流会（3月12日）参加者22名

(4) 福祉教育の推進

ア 福祉教育に関する相談 9件(小学校 8件、地域団体 1件)

11 幸区あんしんセンター事業

援助が必要な高齢者や障害者が、地域の中で自立した生活を送ることができるよう、関係機関と密に連携を図りながら事業を実施した。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 744件（初回相談50件、継続相談694件）

（※令和2年度相談件数 1,584件/初回相談65件、継続相談1,519件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 162件（初回相談62件、継続相談100件）

1 2 老人いこいの家運営等事業

(1) 老人いこいの家の管理運営

総合相談窓口 利用者からの聞き取りにより助言や関係機関を案内。

適切な管理 不良個所の迅速な修繕、管理人による日常的な点検。緊急時対応マニュアル、土砂災害対応マニュアルの見直し。避難訓練の実施。各施設年2回。

教養講座 12講座 年223回開催

入浴事業 入浴事業実施回数 344回

老人いこいの家まつりの開催 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、まつりは中止。代替として作品展を開催（多世代・地域交流事業と同時開催）。

多世代・地域交流事業の実施 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、対面での交流事業は行わず、老人いこいの家利用者の作品とこども文化センターやわくわくプラザ、近隣保育園や小学校のこども達の作品を一緒に展示する作品展を開催（老人いこいの家まつり代替事業と同時開催）。

老人いこいの家運営委員会の開催 12回（8月20日、8月27日、8月30日、9月14日※2か所開催、9月15日、11月9日、11月25日、12月7日、12月14日、1月14日、1月17日）

1 3 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

販売実績 延べ4,893件

1 4 災害活動関連事業

(1) 災害時におけるボランティアセンターの役割について検討

1 5 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会幸区支会への協力

募金実績 一般募金12,392,382円 達成率 77.7%

年末たすけあい募金8,800,687円 達成率81.5%

(2) 幸区民生委員児童委員協議会

幸区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力。

16 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会の事業に協力

「老人福祉（・地域交流）センター」の指定管理運営事業について、市社協と区社協が協働、連携して適正な管理運営を実施。

年間利用者数 12, 230名

相談事業 健康相談 月4回 内科医、整形外科医が交代で実施

 生活相談 随時対応（看護師による健康相談・血圧測定実施）

講座 18講座実施

行事 踊ろう会、菖蒲湯、七夕飾り、コグニサイズ、敬老のつどい、プラザ祭り作品展、シニアの食とお口の健康のお話、ボッチャ体験会・交流会、折り紙で作る箸袋・ポチ袋、ハンドチャイム体験会、内科講演「コロナに打ち勝とう」、柚子湯、みんなでラジオ体操&脳トレ、スマホ・タブレットなんでも相談会、節分豆まき、利用者感謝デー

川崎市中原区社会福祉協議会

令和3年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動の推進

地区社協や福祉団体等への活動経費の一部助成を通じて、地域福祉活動や在宅福祉活動を育成支援しました。

地域福祉活動拠点としての新たな取り組みについては、新型コロナウイルスの影響などにより具体的な検討には至りませんでした。

地域福祉ケアシステムの構築に向けた行政、関係機関との連携については、行政の主催事業への協力や関係会議への出席などにより連携を図りました。

2 ボランティア活動の推進

ボランティアセンター運営委員会を年3回開催し、ボランティア団体の育成や活動を支援する一環として、講座や研修会等を計画しましたが、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

広報活動については、ボランティア情報誌「ポポラーレ」を年4回（各1,400部）発行し、ボランティアセンターの紹介、ボランティア活動や地域活動に関する貸出物品の案内などの情報発信を通じて、ボランティアセンターの機能充実と利用促進に向けた取り組みに努めました。

3 広報啓発活動、組織体制の強化

正副会長会議や常任委員会、各委員会を開催し、適切な組織運営を行い、ネットワークの強化に努めました。

また、令和2年度に策定した第4期地域福祉活動計画（令和3年度～令和5年度）に基づき、「みんなが主役」、「みんなにわかる」、「みんなでつくる」おたがいさまの心で満ち溢れるなかはらの福祉を実現するため、住民の地域福祉活動への参加が促進されるように啓発などに取り組み、地域福祉の推進に努めました。

広報紙については、編集委員会を開催し、地域の福祉情報やボランティア情報、社協事業を広く住民に周知するための広報紙「社協なかはら」を年4回発行し、福祉サービスの情報提供の充実に取り組みました。

多数の人が集まる事業や行事については、正副会長会議や本会の各種委員会において、開催に向けて検討しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止や縮小しての実施により対応しました。

事業報告の内容

中原区社会福祉協議会 事業費【41,910千円】

【サービス区分事業活動支出	27,408千円】
【サービス区分施設整備等支出	651千円】
【共同募金配分金	13,851千円】

1 中原区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 3回（5月、9月、2月※全て書面にて決議）
- イ 運営協議会の開催 1回（6月※書面にて報告）
- ウ 正副会長会議の開催 4回（5月13日、9月24日、1月21日、2月16日）

(2) 令和3年度会員及び賛助会員数

	R3実績	R2実績
会員数	112	114
賛助会員数	1,613	1,767

(3) 種別会議

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(4) 寄付金品の受け入れ

合計 321,738円

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の推進

計画に基づいて各事業の推進に努めました。

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

4 企画・広報事業

(1) 第25回なかはら福祉健康まつりの開催

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「社協なかはら」の発行

ア 広報紙「社協なかはら」年4回発行

121号(88,000部)、122号(88,000部)

123号(88,000部)、124号(84,000部)

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

ア ホームページでの情報発信

中原区社会福祉協議会 ホームページ (www.nakaharaku-shakyo.jp)

5 地域福祉活動事業

(1) 福祉関係交流集会(第25回なかはら健康福祉まつり)

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 保有物品の貸出

高齢者疑似体験グッズ等 12件

(3) 障害者(児)リフレッシュ事業

区内在住の障害者(児)及びその家族への生きがいや自立支援を目的に、川崎フロンターレホームゲームに招待しました。

(4) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

キャビネット貸出し 18団体

(5) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 143件

(6) 福祉用具の再利用

ア 譲りたい要望 27件

イ 譲ってほしい要望 3件

ウ 譲渡成立件数 13件

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会等への助成

区内地区社協、地区民協	5団体	計	1,256,095円
-------------	-----	---	------------

福祉活動	8団体	計	260,000円
------	-----	---	----------

(2) 社会を明るくする運動への助成

令和3年度は申請なし

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

- ア 会食活動に助成 10 団体 計 1,388,000 円
- イ 配食活動に助成 1 団体 計 215,000 円
- ウ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催
※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

7 連絡・調整事業

(1) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催

地区社協会長・地区民児協会会長会議の開催 1 回（7 月 19 日）

(2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

(3) 会員への情報提供

会員向け情報紙「なかはらタイムズ」を毎月発行。

8 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末見舞金配布 779 世帯・計 3,895,000 円

(2) 子育て支援事業

- ア 子育てグループに助成金配布 8 団体 計 201,000 円
- イ 講座「～子育て・親育ち～こころの子育て講座」の開催
※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(3) ボランティア・当事者団体への活動助成

9 団体 計 261,071 円

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室及びボランティアコーナーの貸出し

研修室 224 件、ボランティアコーナー 125 件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

- ア 通常貸付（新型コロナウイルス関係を除く）決定件数 5件
- イ 特例貸付（新型コロナウイルス関係）申請件数 1,951件

11 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 3回（6月29日、10月25日、※2月は書面開催）

(2) ボランティア依頼及び活動希望の相談・調整

- ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 20件（令和2年度 21件）
- イ ボランティア募集の依頼 9件（令和2年度 11件）

(3) ボランティア情報誌の発行等、広報活動の実施

- ア 情報誌「ポポラーレ」年4回発行（4月、7月、10月、1月 各1400部）
- イ 広報活動 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(4) 各種講座・セミナーの開催

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(5) 福祉教育の推進

- ア 福祉教育に関する相談 14件

12 中原区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 906件（初回相談33件、継続相談873件）

（※令和3年度相談件数 1,933件／初回相談67件、継続相談1,866件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 109件（初回相談44件、継続相談65件）

13 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

参加人数 39名 ・ ボランティア 32名

(2) 夜間・休日等施設開放事業

利用人数 計267人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計44,938人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

ア 運営委員会 3回（等々力、ごうじ、丸子多摩川は各1回開催、他11回は書面開催）

1.4 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

販売実績 延べ479件

1.5 災害活動関連事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

1.6 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会中原区支会への協力

募金実績 23,858,129円 達成率 75.8%

(2) 中原区民生委員児童委員協議会

中原区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力

1.7 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

川崎市社協が「地域生活支援SOSかわさき事業」の一環として行っている「食糧支援かわさき」に協力し、コロナ禍において生活に困窮されている方に対し、食糧支援を行いました。

また、中原老人福祉センターとの連携を図り、センターの事業運営に協力しました。

川崎市高津区社会福祉協議会 令和3年度 事業報告

◆重点事業◆

1 健康づくり・いきがいく「おたっしや10のトライ」推進事業の推進

(1)「おたっしや10のトライ」「健康の日」の推進

「おたっしや10のトライ」推進事業のオリジナルテーマ曲、オリジナル体操、テントラ音頭、マスコットキャラクター「テントラちゃん」を活用して区民への健康増進の意識啓発に努めました。

また、本会で制定した「健康の日」などを通じて、老人いこいの家を中心に健康体操を実施して健康づくりに取り組みました。

(2)「おたっしやでつながる地域の輪」の推進

地域づくりの手引き「おたっしやでつながる地域の輪」を周知して支援に努め、各地区の特性を活かした取組みを進めるための地域福祉懇談会の開催を計画し、橘地区社会福祉協議会の地域で開催しました。また、新型コロナウイルスの影響を受ける中で、高津みんながつながる音楽会の開催に代えて音楽会のPR動画を制作してy o u t u b eで公開すると共に、テントラ音頭のお披露目を開催し、踊り方の講習会を実施して健康増進と地域づくりの啓発に努めました。

2 活動・交流の場づくりや機会づくり

各地区の小地域福祉活動がより一層盛んに行なわれるよう、地域の居場所づくりや、そこを拠点とした住民主体の取組み（高津第一地区社協シニアサロン「たかつの縁側」、下作延地区の「子育てサロンinしもさくのべ」の活動等）を支援しました。

福祉パルたかつ、老人いこいの家において、区民の憩いや交流・活動の場としての充実に努めました。

老人いこいの家については、多世代交流・地域交流・介護予防等を推進し、地域拠点としての機能の発展やさらなる利用促進を目指して、地域と連携した取組みを進めました。

3 地域福祉活動の活性化・参加の促進

地区社会福祉協議会を支援し、住民主体の活動の活性化、参加の促進に努めました。

高津区ボランティアセンター事業を通じて、ボランティア活動や当事者活動と連携し、誰もが気軽に地域活動に参加できる環境や機会づくりの支援に努めました。

福祉学習にかかわる相談への対応をはじめ学習機会の提供や情報の発信等を通じて、教育機関や関係機関・団体等と連携し、学校や地域における福祉教育の推進に努めました。

4 災害時の支援体制の充実

ボランティア事業の中で災害ボランティアセンター研修会を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和4年度に延期としました。

高津区が会場となった川崎市総合防災訓練に市社協と共同で参加し、災害ボランティアセンター運営における職員のスキル向上を図ると共に、防災訓練に参加する高津区の町会・自治会の

方々に対して、災害ボランティアセンター活動記録をパネル掲示し、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行いました。

5 行政との協働・連携

高津区役所地域みまもり支援センターをはじめとする行政機関と連携・協働し、地域包括ケアシステムの構築・推進に向けた区民一人ひとりの自助・互助活動が促進されるよう取組みに努めました。

事業報告の内容

高津区社会福祉協議会 事業費【41,678千円】

【サービス区分事業活動支出 33,599千円】

【共同募金配分金 8,079千円】

1 高津区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 3回（6月1日、9月30日、2月21日※書面表決）

イ 運営協議会の開催 2回（6月1日、2月25日※書面表決）

※2月21日、2月25日は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 地区社協・地区民児協会長会議

ア 地区社協会長会議の開催1回（1月18日）

イ 地区社協・地区民児協会長会議の開催 1回（3月30日）

(3) 会員や賛助会員の増強 令和3年度入会会員

ア 正会員 21件

イ 賛助会員 2,380件

	R3 実績	R2 実績
正会員数	124	112
賛助会員数	2,380	2,545

(4) 寄附金の受入れ活用

ア 寄託金 32件

イ 寄託品 6件

	R3 実績	R2 実績
寄託金（件）	32	14
寄託金（円）	1,749,005	1,306,349
寄託品（件）	6	8

2 調査・研究事業

(1) 第4期高津区地域福祉活動計画の推進

令和3年度は令和2年度に中間見直しを行った計画に基づいて事業の推進に努めた。

(2) 地域包括ケアシステムや地域福祉推進の調査・研究

特に実施していない。

3 研修事業

(1) 区・地区社会福祉協議会研修会の開催

ア 区・地区社会福祉協議会研修会の開催 1回（7月21日）

4 企画・広報事業

(1) 広報紙「おあしす」（年2回発行、編集委員会の開催）・情報紙「トピックス」（毎月発行）・パンフレット等の発行

ア 広報紙「おあしす」 年2回、各7,000部発行、編集委員会の開催 6回（6月10日、7月8日、7月28日、12月3日、1月7日、2月3日）

イ 情報紙「トピックス」年12回、各450部発行

ウ 「区社協リーフレット」、「おたっしや10（健康十訓）」チラシ、地域づくりの手引き「おたっしやでつながる地域の輪」 配架及び配布

(2) ホームページの運用

ア ホームページでの情報発信

高津区社会福祉協議会 ホームページ (<https://takatsuku-shakyo.jp/>)

(3) たかつ区健康福祉まつり・高津区民祭への参加

令和3年度参加予定であった「たかつ区健康福祉まつり」・「高津区民祭」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会への支援、連携・協働

共同募金配分金を財源とした交付金及び賛助会費の配分金を高津区内の4地区社協へ活動費として助成した。

また、地区社協が地域の障がい児・者、児童・青少年などを対象として推進している小地域福祉活動に対し、情報提供や事務的な協力などにより活動を支援した。

(2) 「おたっしや10のトライ」推進事業の推進（健康運動の推進、健康運動普及推進チーム「チームテントラ」会議の開催）

高津区の健康運動「おたっしや10のトライ」を組織的に推進するために、地区社協、ボランティアグループ等で構成するチームを設置し、地域の中で具体的にできる活動について協議し、高津みんながつながる音楽会の開催やテントラ音頭の普及などについて検討した。

健康運動普及推進チーム「チームテントラ」会議の開催 3回（4月26日、5月13日、7月29日）

(3) 「おたっしやでつながる地域の輪」推進事業の実施（地域福祉懇談会の開催、高津みんながつながる音楽会 PR 動画の制作、テントラ音頭の普及）

地域で生活する住民同士が意見交換を行う中で、地域における課題の把握や解決策を話し合い、各々の地域活動につなげていく話し合いの場として、橘地区社協の地域（久末・蟹ヶ谷地区）を対象に地域福祉懇談会を開催した。また、第3回高津みんながつながる音楽会の開催の代わりに音楽会のPR動画を制作してy o u t u b eで公開すると共に、テントラ音頭のお披露目会及び踊り方の講習会を開催した。

(4) 音楽カフェ等の開催

地域の高齢者と多世代の交流促進を目的に音楽カフェ等の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。内容、開催方法等について検討を継続した。

(5) 高津区敬老会の開催（祝品贈呈、功労者・寄付者表彰、実施委員会の開催）

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が出されたため式典は中止し、事前に申込のあった90歳・91歳祝の方には表彰状と記念品を送付した。併せて高齢者福祉への功労者に対する会長表彰・感謝を行った。

実施委員会の開催 2回（6月11日、8月5日）

(6) 福祉用具（車いす）の貸出し

区民及び福祉教育（車いす体験）のための車いす無料貸出 171件

(7) 移送サービス事業の実施（移送車による移送サービス、車両貸出し、移送ボランティア研修会・交流会の開催、運営委員会の開催）

- ア 移送サービス利用件数 87件（車両貸出は0件）（※令和2年度 85件）
- イ 運営委員会の開催 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ウ 移送ボランティア交流会の開催 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- エ 移送ボランティア研修会の開催 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(8) 子育て支援事業の推進（こども子育て支援事業推進委員会の開催、子育て支援講座の開催、子育て支援グッズの貸出し）

- ア こども子育て支援事業推進委員会の開催 5回（7月15日、9月29日、12月7日、2月14日、3月23日）
- イ 子育て支援講座の開催 2回（5月21日、3月15日）実施した。※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期
- ウ 子育て支援グッズの貸出し 23件（個人向け1件、機関・団体向け22件）

(9) ふれあい会食・配食、ミニデイケア実施団体交流事業の開催

会食や配食に関わるボランティアが集い、高齢者に配慮した食事について学び、献立について情報交換をすることで、区内の高齢者向け食事サービス活動がより活性化されることを目的に高津区役所地域みまもり支援センターと共催で開催する予定としていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

6 団体等助成事業

(1) 共同募金配分金による地区社協交付金の交付

区内4地区社協への助成金 計3,870,000円

(2) 賛助会費の配分による地区社協への地域福祉活動費助成

区内4地区社協への助成金 計3,309,600円

(3) 年末たすけあい募金による小地域福祉活動支援事業助成（審査会の開催）

ボランティア・当事者団体等への助成金 56団体 計1,150,000円

(4) ふれあい会食・配食、ミニデイケアへの助成

ア 会食活動に助成 14団体 計1,984,000円（未実施戻入137,000円）

イ 配食活動に助成 0団体

ウ ミニデイケアに助成 1団体 計170,000円

(5) 高津区社会を明るくする運動への助成（推進委員会への参画）

第71回社会を明るくする運動への助成 50,000円

(6) 寄附金による地域活動団体への助成（記念事業、地域包括ケアシステム推進に向けた互助活動への助成）

本会会員を対象に特別記念事業への助成 3団体 計180,000円

7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

神奈川県共同募金会川崎市高津区支会委員会並びに年末たすけあい運動実施委員会の開催
2回（6月24日、1月18日）

(2) 年末たすけあい配分事業（民生委員児童委員を通じての年末見舞金の贈呈、配分委員会の開催、その他配分を受けての事業実施）

年末見舞金の配布 675世帯・計2,025,000円

年末たすけあい運動実施委員会（配分委員会）の開催1回（12月10日）

8 福祉パル管理運営事業

(1) 地域福祉活動拠点としての「福祉パルたかつ」の管理運営

「福祉パルたかつ」の適正な管理運営を行った。

(2) 研修室、フリースペース（ボランティアコーナー）の貸出し

研修室A 248件、研修室B 39件、フリースペース 359件

(3) 印刷機・紙折り機等の機材の貸出し

印刷機は新型コロナウイルス感染防止のため予約制により貸出

(4) 福祉広報物の配架・掲示

行政・関係機関・団体等からの広報物や福祉情報の案内等を随時配架・掲示して周知した。

9 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 相談・問合せ件数 1, 438件

イ 区内貸付決定件数 34件

(2) 新型コロナウイルスの影響による収入減少世帯への特例貸付

ア 相談・問合せ件数 9, 714件

イ 区内貸付決定件数 2, 921件

(3) 貸付調査委員会の開催、民生委員児童委員を通じての現況調査

共同募金関係会議後に新型コロナウイルスによる収入減少世帯への特例貸付及び通常貸付について報告。現況調査は今回も神奈川県社協からの依頼が無いため実施していない。

(4) だいJOBセンター等関係機関との連携による支援

民生委員児童委員、行政の関連部署や公共職業安定所、だいJOBセンター（自立支援相談機関）等の各関係機関と連携しながら貸付相談を行い、低所得世帯等の自立促進に向けて支援した。

10 ボランティア活動振興事業

(1) 高津区ボランティア活動振興センター運営委員会・事業企画部会の開催

運営委員会の開催 1回（5月19日）、事業企画部会の開催 8回

（4月19日、6月9日、7月28日、8月25日、10月15日、11月22日、1月6日、2月18日）

(2) ボランティア講座の開催

ア 傾聴入門講座の開催（9月24日） 参加者17名

イ 災害ボランティアセンター研修会の開催 ※令和4年度へ延期

(3) ボランティアに関する相談対応・情報提供

ア ボランティア活動依頼 14件（令和2年度 14件）

イ ボランティア活動希望 25件（令和2年度 27件）

(4) 「たかつボランティア情報」の発行

毎月発行する高津区社協情報紙「トピックス」に「たかつボランティア情報」のコーナーを設け、ボランティア関連情報を掲載した。

(5) 寄託金の配分助成

本会会員を対象に特別記念事業への助成 3団体 計180,000円

(6) たかつボランティア・当事者連絡会等との連携・支援（交流会の開催等）

ア 第10回たかつボランティアまつりの開催

イ 福島原発被災地ボランティア訪問の実施

※両事業とも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(7) 福祉教育に関する相談対応・情報提供

ア 福祉教育に関する相談 4件

イ 体験用車いすの貸出 9件

(8) 夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2021」の実施（川崎市社協・市内他区社協・関係施設等の共催）

川崎市全体としてのチャレンジボランティアは中止となりましたが、子どもたちがボランティア体験をする機会を少しでも増やすために、高津区独自の取り組みとして実施

ア ニヶ領用水清掃ボランティア体験（8月1日）参加者7名

イ 子どもの外遊びサポートボランティア体験（8月3日）参加者2名

1.1 高津区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 805件（初回相談 35件、継続相談770件）

（※令和2年度相談件数 2,284件／初回相談77件、継続相談2,207件）

※川崎市被保護者金銭管理支援事業の開始に伴い、相談数は大幅に減少

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 145件（初回相談66件、継続相談79件）

1.2 老人いこいの家運営等事業

(1) 老人いこいの家利用人数

利用人数 45,305人（団体30,906人、個人14,399人）

（令和2年度 32,232人〔団体20,157人、個人12,075人〕）

(2) 老人いこいの家教養講座

参加人数 413回、3,422人
(令和2年度 373回、3,641人)

(3) ミニデイケアサービス事業

- ア 上作延老人いこいの家で実施 参加人数33人・ボランティア人数88人、
5回(4月15日、7月15日、10月21日、11月18日、12月16日)
※1月～3月はまん延防止等重点措置が延長されたため中止。
- イ 末長老人いこいの家は各戸訪問 訪問利用者数8人、ボランティア人数4人、
1回(2月28日)
- ウ 東高津老人いこいの家は各戸訪問 訪問利用者数7人、ボランティア人数16人、
感染リスクを避けるため2回に分けて実施(9月16日、9月17日)

(4) 夜間・休日開放事業

梶ヶ谷老人いこいの家で受託 ※昨年度同様に、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、利用希望はなかった。

(5) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会 11回(5月21日、6月14日、7月6日、9月7日、11月24日、
11月29日、12月9日、1月12日、3月4日、3月15日、3月23日)

1.3 公益事業

(1) 福祉パルたかつ及び高津老人福祉・地域交流センターにおける高齢者フリーパスの販売・交付

販売実績 802件(福祉パルたかつ160件、高津老人福祉・地域交流センター642件)
(令和2年度 販売実績 652件〔福祉パルたかつ157件、高津老人福祉・地域交流センター495件〕)

1.4 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティアセンター設置運営訓練

- ボランティア事業の中で災害ボランティアセンター研修会を計画 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和4年度に延期。
- 高津区が会場となった川崎市総合防災訓練に市社協と共同で参加し、災害ボランティアセンター運営における職員のスキル向上を図ると共に、防災訓練に参加する高津区の町会・自治会の方々に対して、災害ボランティアセンター活動記録をパネル掲示し、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行った。

1 5 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会高津区支会団体事務

高津区支会の事務局として、赤い羽根共同募金並びに年末たすけあい募金運動の実施、支会委員会の開催（書面表決）、募金の取りまとめ、配分決定等を実施。

募金実績 一般募金 9, 989, 822円 達成率 65.8%

年末たすけあい募金 7, 827, 468円 達成率 74.5%

※高津区支会委員会、街頭募金は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 高津区民生委員児童委員協議会団体事務

高津区民児協の事務局として、区民児協の組織運営（常任理事会、総会等の開催）、連絡調整、研修会の開催、その他事業を実施。

1 6 その他

(1) 総合相談支援（関係機関・団体とのネットワークによる支援）

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて行政・地域包括支援センター等の関係機関・団体と連携して支援に努めた。

(2) 行政との協働・連携（地域みまもり支援センターとの連絡会議の開催、多世代交流事業の促進、障がい当事者に関する講座等の実施）

高津区役所地域みまもり支援センターとの連絡会議を定期的で開催し、情報交換を行うと共に、地域福祉懇談会の開催や立ち上がった地域のサロン活動の支援等について協働して取り組んだ。

(3) たかつ心のパワーアップセミナーへの協力

第15回たかつ心のパワーアップセミナーの実施

(4) 高齢・障がい・子ども子育て等関係機関・団体との連携

各種関係機関・団体との連携・協力（会議への出席、事業への協力）に努めた。

(5) 福祉関係団体の事業への共催及び後援等の協力・支援

区内団体等からの依頼に基づき後援名義の使用を許可した。

(6) 実習生・福祉学習等の受け入れ

社会福祉士実習生等の受け入れ。※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(7) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

市社協の各種事業・取り組みに協力した。

(8) 寄附金による食糧支援の実施

高津第三地区民児協をはじめ区民からの寄附金を基に、区内の生活困窮世帯に対し食糧配布を行うと共に、小学生以下のこどもがいる世帯にクリスマスケーキを配布した。

川崎市宮前区社会福祉協議会

令和3年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動拠点の調査及び開拓

宮前区では区内に50を超えるコミュニティカフェがあり地域住民の集まれる拠点としての役割を担っていますが、令和3年度についても前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対応の影響を受け、区内の多くのカフェが活動を自粛せざるをえない状況が続きました。区社協で事務局をつとめているみやまえカフェ連絡会においても全体としての連絡会は実施できず、役員会を実施し状況の確認を行いました。令和2年度、区内の各カフェにコロナ禍での開催状況の実態調査を実施しましたが、3月に再度、実態調査を実施しました。また、年末たすけあい募金を原資とした福祉団体育成支援金を活用した新たなカフェ創設についての相談対応を行いました。

2 区社会福祉協議会のPR活動の強化

令和3年度も、前年度からの新型コロナウイルス感染防止対応を受け、町内会回覧版が休止している状況が続いておりましたが、広報誌面では、コロナ禍において、感染拡大防止を図りながら、工夫を凝らした活動を継続している地域の団体の紹介や、子ども食堂の実施団体の紹介など、現状の地域福祉活動に関する情報提供と、広報による活動の普及・支援を目的に4回「みやまえの福祉」の発行を行いました。また、ホームページについては、新型コロナウイルスによる特例貸付事業の延期に伴い、随時現状の手続きに関する情報を更新・発信しました。

3 相談機能の強化・充実

令和3年度も引き続き、新型コロナウイルスの影響で仕事が減り、収入が減少した方を対象とした特例の緊急小口資金、総合支援資金の相談対応を行いました。面接、電話を含め1万件に近い相談対応を行いました。また、相談を受ける中で、生活費の貸付や市社協で行っている食糧支援「食かわ」での対応では生活の改善が困難と思われるケースについて、食糧を届けるタイミングに合わせて、地域包括支援センター職員に同行を依頼し、相談者本人宅を訪問し、相談者の生活の様子を確認していただくなど、関係機関との連携を強化し、相談機能の充実をはかりました。

4 新しい生活様式に即した事業の実施

新型コロナウイルスの感染状況が改善しない中、会議などの開催において対面での開催が困難な状態が続いておりました。このような中、Zoom等のネットワークを使用した会議開催をすすめるため、地区社協役員を対象としたZoomに関する基本的な知識や体験を行う研修会を10月に実施しました。あわせて研修室の通信環境を整備するなど、次年度に向けて新しい生活様式に即した事業実施が行える下地作りを行いました。

事業報告の内容

宮前区社会福祉協議会 事業費【27,540千円】

【サービス区分事業活動支出 22,485千円】

【共同募金配分金 5,055千円】

1 宮前区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ・ 常任委員会の開催 3回（内2回書面決議）
- ・ 運営協議会の開催 0回

(2) 正副会長会議の開催

- ・ 正副会長会議の開催 0回

(3) 種別会議の開催

- ・ 種別会議の開催 2回

(4) 賛助会員（協賛会員）の募集

社会福祉協議会活動への理解促進と活動の財政基盤を支える賛助会員増強を図るため、地区社会福祉協議会での説明会を開催し協力を依頼し、賛助会員の増加に努め、自主財源確保を図るとともに、加入者に区社協広報誌を送付する等による区社協事業の周知を行った。

(5) 各委員会の開催

ボランティア活動振興センター運営委員会、年末たすけあい実施委員会、「みやまへの福祉」編集委員会、みやま福祉フェスティバル実行委員会等の各種委員会を随時開催した。

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の進行管理

令和2年度に策定した計画について、関係機関等への配布、周知を行った。

(2) 地域福祉活動拠点の調査・開拓

みやまカフェ連絡会について、新型コロナウイルス感染拡大のため、役員会（2回）と実態調査を行った。

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修会の開催

地区社協役員研修会を常任委員会研修会として位置づけ、10月19日に「Zoom等ネットワーク活用研修」を開催した。

（２）区社協会員研修会（地域福祉懇談会）の開催

令和３年度については３月頃の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染状況の悪化に伴い、地域懇談会は中止となった。

（３）地域住民の主体的な福祉活動促進のための福祉講座の開催

令和２年度、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、担当地区であった有馬鷺沼地区社会福祉協議会の研修会が中止となったため、令和３年度も有馬鷺沼地区を対象として、企画・調整等の支援及び経費の一部を助成する予定であったが、令和２年度同様、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、開催見込みが立たず、中止とすることとなった。

４ 企画・広報事業

（１）第２０回 みやまえ福祉フェスティバルの開催

例年、お子さんからご高齢の方まで幅広い年代層の方にご来場いただき、地域とのつながりの強化や社協活動への理解促進を図る「みやまえ福祉フェスティバル」に関し、令和３年度は新型コロナウイルス感染拡大の懸念から、例年と比べ開催規模を縮小し、事前申込制にあり一般区民の方への参加を呼びかけ、地域福祉に多大なご尽力をいただいた方の功績を称えるための表彰式典および福祉の普及、理解を目的とした映画「ケアニン～あなたでよかった～」の上映を行った。

（２）広報誌「みやまえの福祉及びボランティア活動情報」の発行（全４回発行）

平成２９年度から、「宮前・ボランティア活動情報」と一本化し、地域の福祉情報等を総合的に掲載し、区内の福祉活動の啓発に努めた。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、町内会自治会での回覧が中止されたことを受け、町内会自治会への配布を見直したが、地域に向けた情報提供と社協の実施事業への理解を図るため、町内会自治会長には広報誌の送付を行うなどの取り組みを行った。

また、掲載内容として、コロナ禍における地区社協の活動内容の取り組みや、子ども食堂の主催団体の紹介などを行い、現状における地域福祉活動の周知と理解の促進を目的に、発行を行った。（発行部数１，２００部。フルカラー印刷。主な配布先 関係者・関係機関・町会自治会）

（３）ホームページによる広報活動

ホームページを活用し、区社協の事業や講座の紹介、ボランティア情報の発信等地域の福祉情報を周知することにより、福祉啓発の充実を図った。また、新型コロナウイルス感染症に関連し、生活福祉資金特例貸付の案内や、福祉パルの開所日時の変更について、随時ホームページによる情報発信を行い、貸付を希望する方に向けた利便性の向上を図る取り組みを行った。

（４）宮前区社会福祉協議会オリジナルキャラクターによるＰＲ活動

本会オリジナルキャラクター宮太郎のお供として活動する馬（馬絹・有馬・東有馬）を「マリーヌ」、鷺（鷺沼）を「ヌーマ」、犬（犬蔵）を「ヌーク」として、区内地名になぞられた名前をつけ、より親しみやすいキャラクターとして、社協活動のＰＲを行った。

(5) 地域情報誌や他機関の情報サイト等を活用した積極的な区社協事業PR

タウンニュースに情報提供を行うなど、区社協活動のPRを行った。

(6) SNSを活用した情報発信と情報提供の在り方を検討

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、町内会・自治会の回覧が休止となり、新しい生活様式に即した情報発信の在り方について検討を図った。

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会事業への支援・協力

区社協職員が地区ごとに担当を持ち、地区社協事業への支援を実施した。

(2) 子育て支援事業の実施

①子育て支援関係者連絡会への参加、協力

宮前区内の子育て支援関係者や子育て当事者グループが連携を図り、安心して子育てできる地域づくりを推進するために、子育て支援関係者連絡会に参加し、転入世帯を支援するWELCOME！みやまえキャンペーン、うえるかむクラス、子育てグループ交流会、サロン・広場等交流会を実施するなど、関係機関、団体と協力し事業に取り組んだ。令和3年度については新型コロナウイルス感染拡大を受け、規模縮小、中止となる事業が多かった。

②ふれあい動物コーナー実施

みやまえ子育てフェスタにて、例年未就学児世帯を中心とした親子のふれあいを目的に、移動動物園を実施していたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため移動動物園は中止となった。みやまえ子育てフェスタは規模縮小、内容を変更して実施した。

(3) 移送サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、高齢者や身体障がい者等、既存の交通機関の利用が困難な方に対し、運転ボランティアの方々のご協力のもと、移送サービス用車両（車いす用スロープ付き車両）2台を活用した移動支援を実施した。

①定例会の開催

毎月1回 第3土曜日に開催し、活動報告、情報交換、コーディネートを行った。

②令和3年度移送サービス実施状況

移送ボランティア：12名

利用登録者：11名（内訳：高齢者（要介護）：1名・（要支援）：1名、身体障がい者：9名

(4) 車いす貸出事業

保有台数 20台

貸出のべ台数 112台

（５）買い物支援サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、宮前区社協会員の社会福祉法人施設の車両を使用し、運転・添乗ボランティアの協力のもと新型コロナウイルスの感染状況を見ながら運行した。

協力法人施設：社会福祉法人セイワ 介護老人福祉施設鷺ヶ峯

社会福祉法人アピエ 宮前フレンズ

社会福祉法人子の神福祉会 特別養護老人ホーム富士見プラザ

（６）医療・保健・福祉との連携

①川崎市地域ケア連絡会との連携

相談及び各種サービスを実施している機関が連携し、かつ適切なサービスの提供につながるよう、地域の要援護高齢者の福祉の向上を図ることを目的として設置されている地域ケア連絡会に運営委員として連携した。

②徘徊高齢者ＳＯＳネットワークシステムへの協力

徘徊の可能性のある高齢者の情報を事前に登録することにより、徘徊発生時の情報を関係機関に伝達し、徘徊者発見の手助けを目的とする「みやまえＳＯＳネットワーク」に協力をした。

③障害者自立支援協議会との連携

区内障害者施設や関係機関職員で構成し、障害者の自立生活及びその周辺理解について協議し実践をすることを目的としており、その一員として連携を図った。

（７）在宅介護者支援事業

日頃の悩みや疑問を話し合い、心身のリフレッシュ・仲間作りを目的に開催している。「在宅介護者のつどい」への情報提供並びに他機関や地域に向けた広報活動の支援を行った。

6 団体等助成事業

地区社会福祉協議会をはじめ、福祉団体や当事者団体の行う自主的な福祉活動への助成を通じて、福祉活動、ボランティア活動の育成支援を行った。

（１）ふれあい活動支援事業（会食会、配食サービス、デイサービス活動）への助成

（２）地域の福祉関係団体への活動助成

宮前区社会を明るくする運動実施委員会 （３０，０００円助成）

宮前区子ども会連合会 （２０，０００円助成）

7 共同募金配分金事業

（１）共同募金運動に協力

神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会の行う共同募金運動に、各地区社会福祉協議会やボランティア団体、各関係機関等のさまざまな方の協力を得て、一般募金（赤い羽根）、年末たすけあい募金合わせて１３，７１８，３２９円の実績をあげることができた。

また、令和3年度においては、令和2年度に実施を見合わせた、駅頭を使用して募金呼びかけを行う、「街頭募金活動」について、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、感染防止対策を講じながら12月1日から4日までの計4日間において、全21団体に協力をいただき実施することができた。

(2) 年末たすけあい見舞金配分事業

① 年末たすけあい見舞金配布

年末たすけあい募金を302世帯に見舞金として配分した。(1人あたり5,000円)

② 福祉活動団体育成支援及び活動助成

年末たすけあい運動事業の一環として、宮前区内で福祉サービスを行なう7団体に総額306,000円の助成金を交付した。

③ 宮前区社協福祉協議会の地域福祉に関する事業に配分を行った。

8 福祉パル管理運営事業

川崎市社会福祉協議会を通じて川崎市より福祉パルみやまへの管理運営業務を受託し、地域福祉活動の拠点施設としての運営を図った。

(1) 研修室およびフリースペースの貸し出し

研修室利用件数 330件 1,356人 / フリースペース利用件数 21件 74人

(2) チラシ・ポスター等の掲示による情報提供

(3) 印刷機等活動に必要な機器、機材の貸し出し

9 生活福祉資金貸付事務受託事業

神奈川県社会福祉協議会より生活福祉資金制度の相談、貸付業務を受託し、低所得世帯・障害者世帯等の自立支援を図るための、貸付・償還業務を行った。

(1) 相談件数

9,706件(特例貸付含む)

(2) 新規貸し付け決定数

12件、5,059,000円(特例貸付含まず)

(3) 償還についての相談

滞納世帯の状況を確認し、今後の援助指導および償還についての相談を行った。

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた特例貸付の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、収入減少があった世帯の向けの特例の緊急小口資金及び総合支援資金の貸付を行った。(申請件数2,302件、申請額993,890,000円)

10 ボランティア活動振興事業

相談・情報提供・連絡調整・啓発・人材養成を行い、宮前区のボランティア活動の振興を図った。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

運営委員会 1回開催

(2) ボランティアに関する相談・情報提供の実施

ボランティア相談に関する、ボランティア専門相談員を週2回配置し、ボランティアの需給調整及びボランティア活動等の情報提供を迅速かつ多角的な視点を持って取り組んだ。

ボランティア活動希望24件、ボランティア依頼19件

(3) 「宮前・ボランティア活動情報」の発行

広報誌「みやまえの福祉」と一本化し、年4回、団体、施設、個人からのボランティア相談・依頼のほか、災害ボランティアや福祉情報を掲載し、区内のボランティア活動の啓発に努めた。

(4) 福祉教育事業の推進

①小中学校の福祉教育授業への協力

(ア)区内小学校・中学校の福祉教育授業へ車椅子等の貸出

(イ)講師の紹介

②関係施設・機関等の研修への協力

(ア)区内関係施設・機関の研修への車椅子等の貸出

(5) 福祉啓発、ボランティア人材発掘を目的とした講座・セミナー等の開催

ボランティア入門講座「障がいの理解・啓発のすすめ ～オープンエアメーカー養成講座～」をオンライン（ZOOM）で実施し、14名の参加があった。

(6) 夏休みの福祉体験講座「チャレボラ2021」の開催

令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて実施できなかった。

(7) ボランティア活動等保険の取扱い

ボランティア個人またはボランティアグループなどが加入申込人となり、全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約の窓口業務を行った。

令和3年度保険加入件数185件

11 宮前区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 1,092件（初回相談39件、継続相談1,053件）

（※令和2年度相談件数 2,522件／初回相談62件、継続相談2,460件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 151件（初回相談86件、継続相談65件）

12 老人いこいの家運営等事業

指定管理者として宮前区内5箇所の老人いこいの家（長寿ケアホーム）の管理・運営を行った。

(1) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会開催数（5館） 11回

(2) 管理人研修会

5回実施、70名参加

(3) 老人いこいの家年間利用者数の状況

年間利用者数（5館） 30,821人

(4) 教養講座の実施

教養講座実施回数、参加者数（5館） 延べ71回、948人

(5) ミニデイケア事業の開催状況（3ヶ所）

参加人数 計 2人 ・ ボランティア数 計 10人

(6) 夜間・休日等施設開放事業（1ヶ所）

利用人数 計 747人

13 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

高齢者の社会活動への参加を促進し、福祉の増進を図ることを目的に川崎市高齢者フリーパスを交付した。（対象者：70歳以上の方に「川崎市高齢者フリーパス」を交付（有料）し、バスに乗るときにフリーパスを提示して乗車）

令和3年度交付枚数3,444枚

14 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティア活動の啓発

令和3年度については高津区で実施した総合防災訓練に職員を派遣し、災害ボランティアセンターの設置訓練に参加したが、宮前区における災害ボランティア活動に関する啓発は未実施となった。

(2) 災害対策・事業関連における関係機関との連携強化

宮前区地域防災連絡会議全体会議なども書面での開催となった。

1 5 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会への協力（再掲）

(2) 宮前区民生委員児童委員協議会

(3) みやまえカフェ連絡会「まいCaféみ〜や」

新型コロナウイルス感染拡大のため、役員会（2回）と実態調査を行った。

(4) 関係団体の事務協力

1 6 その他

(1) 宮前区賀詞交換会の共催

令和4年賀詞交歓会は新型コロナウイルス感染防止の観点から内容を変更し、演芸を鑑賞する会として実施した。

(2) 関係機関主催の会議、事業への参加、協力

(3) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

(4) その他、本会の目的を達成するために必要な事業の実施

川崎市多摩区社会福祉協議会 令和3年度事業報告

◆重点事業◆

1 ボランティア活動の振興（基本目標1－行動計画1－2）

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で中止となる事業が多くありました。その中で、障害について理解し何ができるのかを考えることを目的としたボランティア入門講座「オープンエアメーカーをつくろう」を開催することができました。また、福祉教育ではオンラインでの教職員と福祉学習支援者との交流会を開催し、今後の福祉学習の方法などの情報交換を行うことができました。

2 災害支援ボランティア活動の推進（基本目標1－行動計画2－2）

例年、多摩区役所が実施する総合防災訓練において災害ボランティアセンターの周知活動を行っていましたが、今年度は、小学校を会場としての総合防災訓練が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となりました。そのため、次年度に総合防災訓練が再開したときを想定し、コロナ禍の中での災害ボランティアセンターの周知活動についての検討を行いました。

3 情報提供の充実（基本目標2－行動計画3－1）

広報紙「区社協だより多摩」の発行と、ホームページやフェイスブックなどの運営により、多摩区社会福祉協議会の事業活動の紹介を行いました。また、コロナ禍における生活福祉資金特例貸付や市社協の食糧支援かわさき、川崎市の女性相談窓口の案内などの情報提供も行いました。さらに、様々な相談機関の情報提供を行う中で、区社協でも相談者に対して直接、食糧や生理用品の配布なども行いました。

4 安定的に持続した組織・基盤づくり（基本目標2－行動計画4－3）

川崎市社会福祉協議会の会員規程の一部改正により、第6種会員（施設会員）については市会員と区会員の双方に入会することとされたため、これまで市会員のみ会員となっていて、区会員の入会資格のある団体に入会の案内を行ったところ、新たに20団体に区社会福祉協議会の会員となっただけでした。

また、川崎市社会福祉協議会地域部会の地区社協役員研修会で、多摩区の地区社協がコロナ禍での地域福祉活動についての事例発表を行い、全体での意見交換を行うなど市・区社会福祉協議会が一体となった組織の基盤づくりを行いました。

事業報告の内容

多摩区社会福祉協議会 事業費【36,172千円】

【サービス区分事業活動支出 26,016千円】

【サービス区分施設整備等支出 1,652千円】

【共同募金配分金 8,504千円】

1 多摩区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会、正副会長会議の運営

ア 常任委員会の開催 2回

6月1日、2月18日（書面会議に変更）

イ 運営協議会の開催 2回

6月30日（書面会議）、2月25日（書面会議に変更）

ウ 正副会長会議の開催 4回

5月26日、7月5日、8月30日、2月9日

(2) 一般会員、賛助会員、協賛会員の募集

川崎市社会福祉協議会の会員規程の一部改正により、第6種会員（施設会員）については市会委員と区会員の双方に入会することとされたため、区会員の入会資格のある団体に入会の案内を行ったところ、新たに20団体に区社会福祉協議会の会員となっていました。その結果、令和3年度の多摩区社協の全体の会員数は120団体となりました。

また、賛助会員の募集については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の措置等の影響もあり、募集時期を1月から3月までの3か月間に変更し、例年同様各地区社会福祉協議会（町会・自治会、民生委員児童委員等）のご協力を得て実施しました。

（実績 賛助会員2,478件、賛助会費3,759,000円）

さらに、自主財源確保のための各種会員募集・寄附金募集では、広報紙や区社会福祉協議会ホームページを活用した広報活動を行いました。

2 調査・研究事業

(1) 中間見直し後の第4期地域福祉活動計画の進行管理

中間見直し後の地域福祉活動計画については、特に令和3年度の重点項目に掲げた4項目を中心に事業を展開しました。ボランティア活動の推進や情報提供、安定的に持続した組織・基盤づくりについては概ね実施できました。災害ボランティア活動の推進については、小学校を会場とした総合防災訓練が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となったために実施できず、次年度に総合防災訓練が再開したときを想定したコロナ禍の中での災害ボランティアセンターの周知活動についての検討を行いました。

(2) 種別会議等によるニーズ調査

令和2年度に第4期地域福祉活動計画の中間見直しを行ったため、令和3年4月から各

種別会議を開催し見直し後の計画について説明を行いました。その中で、コロナ禍で工夫をして活動を行った事例など、今後の活動の参考にする情報交換を行いました。

(3) 区社会福祉協議会・地区社会福祉協議会研修会の開催

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、令和4年度の春頃に延期して開催することにしました。

3 企画・広報事業

(1) 広報紙「区社協だより多摩」の発行

区社会福祉協議会の事業活動の紹介や、関連する福祉情報の提供を行うとともに、広く社会福祉に関する啓発を行うため、広報紙「区社協だより多摩」を年4回発行しました。

広報紙は、区社会福祉協議会会員や関係機関等への配布と併せ、多摩区内の町会・自治会での回覧（年3回）とタウン誌の一部ページを買い取った形での掲載（年1回）を行いました。さらに、ホームページへの掲載や音声版広報紙の作成により、多くの区民への情報提供を行いました。

(2) ホームページの運営

ホームページでは、各種講座の周知やボランティアの募集、老人いこいの家の月間予定等の情報の更新・発信や多摩老人福祉センターの紹介などを行いました。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対応についての情報や生活福祉資金の新型コロナ特例貸付の制度変更の新着情報等、随時情報を掲載しました。

(3) 第14回多摩区社会福祉大会の開催

多摩区社会福祉大会実行委員会を3回開催し大会の開催に向け準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の第6波によるまん延防止等重点措置期間の延長により、開催を中止しました。なお、顕彰対象者8組（個人7人、団体1組）には郵送にて感謝状と記念品を贈呈しました。

(4) 多摩区民祭への参加による啓発活動

新型コロナウイルス感染症の影響で多摩区民祭が中止となりました。

4 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会活動の支援

区内の5つの地区社会福祉協議会が主体的に地域福祉活動に取り組めるよう支援を行うとともに、相互の連絡調整や連携のための地区社会福祉協議会会長会議を開催し、当該会議においてコロナ禍での各地区社会福祉協議会の活動に関する情報交換や、賛助会員募集についての検討を行いました。

(2) おしゃべりサロン「いちにのさん！」の立ち上げ(子育てサロンからの移行)

令和3年度は、次年度から新たに、多世代交流事業のおしゃべりサロン「いちにのさん！」を立ち上げるため、ボランティアスタッフを募集し、説明会やボランティアスタッフ向けの研修会を実施するなど令和4年4月の開催に向けての準備を進めました。

(3) 車椅子の貸出

障害や高齢、病気やけが等で外出が困難な区民の生活上の便宜を図り、社会参加を促進するため車椅子の貸出しを行いました。また、令和3年度には新型コロナウイルスワクチン接種のための車椅子の貸出も行いました。車椅子を管理していく上では、傷害保険・賠償責任保険に加入するとともに、破損や劣化が見られる物については随時メンテナンスを行い、修理が困難な物等については廃棄を行いました。

貸出台数 延159台

5 団体等助成事業

住民主体による福祉・ボランティア活動を推進するため、活動団体に情報提供や連絡調整等の協力支援を行いました。

(1) 地区社協への助成

賛助会費を原資とした「地域福祉活動費助成」や共同募金配分金を原資とした「育成交付金」、「福祉活動助成金」などの助成事業により、地区社会福祉協議会が実施する地域福祉活動の支援を行いました。

(2) 寄付金を財源とした当事者団体、ボランティアグループへの助成

寄付金品を受入れ、「助成金配分委員会」を開催し、第9種会員（障害者等当事者団体）、第10種会員（ボランティアグループ）及び区内福祉施設等への寄附金品の配分を行いました。

(3) 高齢者ふれあい活動支援団体への助成

会食会、ミニデイサービス活動、配食サービス（令和3年度は実施団体無し）を対象とした「ふれあい活動支援事業助成」等の助成事業を通じて、在宅福祉活動の支援を行いました。

6 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動への協力

神奈川県共同募金会川崎市多摩区支会として、各地区分会と協力し区内の共同募金運動を実施しました。

共同募金（一般募金）実績額	10,805,222円
年末たすけあい募金実績額	6,523,568円

(2) 共同募金配分事業の実施

神奈川県共同募金会からの配分金を各地区社会福祉協議会に育成交付金として交付するとともに、地域福祉の推進のために開催される行事への助成を行ったほか、本会が行う各種事業に充当して有効に活用しました。

一般募金配分金額 1, 5 5 9, 3 9 0 円

年末たすけあい募金配分金額 6, 4 7 2, 2 3 9 円

ア 区内在住の福祉ニーズを持つ世帯への年末慰問金の交付

年末慰問金を申請した福祉的ニーズを持つ世帯への交付について、年末たすけあい配分委員会において交付額等を検討し、6 3 2 世帯に年末慰問金 2, 5 2 8, 0 0 0 円（1 世帯 4, 0 0 0 円）を交付しました。

イ 福祉車両の貸出事業の実施

障害や身体機能の低下等で、公共交通機関による移動が困難な方を対象に「福祉車両貸出しサービス」を実施していますが、今年度の利用申請はありませんでした。

ウ 子育てグループ交流会の実施

母親クラブ助成金申請説明会を開催しグループ交流を企画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により交流会は中止し、郵送での交付を行いました。

エ 地域福祉貢献事業の起業グループへの助成

地域福祉活動の立ち上げを支援する「地域福祉貢献事業起業助成」事業については、今年度は申請がありませんでした。

オ 福祉関係団体、行事への助成（母親クラブ、社会を明るくする運動、多摩ふれあいまつり、たまたま子育てまつり）

多摩区内の 3 つの母親クラブの活動を支援するため、各地区社会福祉協議会を通じて 1 クラブ 5, 0 0 0 円の助成を行いました。

また、社会を明るくする運動に 6 0, 0 0 0 円、多摩ふれあいまつりには 2 0 0, 0 0 0 円の助成を行いました。

なお、たまたま子育てまつりは、コロナ禍で中止となったため助成は行いませんでした。

7 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室、ボランティアコーナーの貸出し

川崎市から「福祉パルたま」の管理運営業務を受託し、地域福祉活動・ボランティア活動の拠点施設として、研修室およびボランティアコーナーの利用提供を行いました。前半はコロナ禍による利用の制限がありましたが、後半は 3 密を避けるよう条件はありましたが、人数についての制限がなくなりました。

また、利用者が安心・安全に利用できるよう劣化している研修室の長机と椅子の入れ替えやボランティアコーナーの本棚の入れ替え、さらに Wi-Fi の導入をして快適に利用ができる環境を整えました。

	年間利用件数	年間延べ利用者数
研修室	3 1 8 件	3, 7 4 7 人
ボランティアコーナー	1 1 0 件	3 9 9 人

(2) 印刷機等の機材、機器の貸出し

福祉関係団体や町会自治会などに対し印刷機や折り機の貸出を行いました。また、印刷機の使用頻度による故障が多くなったため、新機種への入れ替えを行いました。

	年間利用件数
印刷機(印刷室)利用	3 0 1 件

(3) 情報コーナーを活用したチラシ等の配架とポスター等の掲示

関係機関、団体から送られるチラシやポスターを配架・掲示し、来館者への情報提供に努めました。

8 生活福祉資金貸付事業

令和2年3月25日から開始した新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付制度は、令和3年度も制度延長となったため、引き続き、相談・申請・受付を行いました。生活福祉資金について延12, 129件の相談を受け、1, 683名から総合福祉資金特例再貸付申請を含め2, 722件の申請（申請額は、1, 051, 673, 000円）を受け付けました。貸付け対象とならなかった相談についても、他機関の紹介や他制度の情報提供等を行いました。

また、生活福祉資金貸付件数などの実績報告を行っている生活福祉資金貸付調査委員会は令和3年度には開催せず、多摩区民生委員児童委員協議会常任理事会のほか、地区社協会会長会議等で特例貸付の周知や実績件数の報告を行いました。

なお、滞納世帯への償還援助については、県外転居者の住所調査や債務関係者からの相談に対し、償還方法の案内や償還免除手続きを行いました。

9 ボランティア活動振興事業

(1) 多摩区ボランティアセンターの運営

令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響はありましたが、多摩区ボランティアセンター運営委員会の中に講座部会と情報相談部会を設け、各部会で実施できることを検討し、ボランティア入門講座の実施やボランティア情報誌「たまぼら」発行を行いました。

(2) ボランティア相談会「たまぼらひろば」の開催

新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりパサージュ・たまの出店数が制限されたため、ボランティア相談会「たまぼらひろば」の出店は見合わせました。

また、区民・関係機関等からの相談については、多摩区ボランティアセンター運営委員

会に報告し、ボランティアニーズの共有化を図りました。

＜年間相談件数＞

- ・ボランティアをしたい方の相談： 17件
- ・ボランティア受け入れ希望者の相談： 7件

（３）ボランティア情報誌「たまばら」の発行と区社会福祉協議会ホームページを活用したボランティア情報の発信

ボランティア活動に対する様々な情報の提供を通じて、ボランティア活動への理解や関心を高めることを目的に、ボランティア情報誌「たまばら」を年３回発行し、区内の関係機関やボランティア活動希望者に送付するとともに、区社会福祉協議会のホームページにも内容を掲載しました。

また、区社会福祉協議会ホームページでボランティアグループの紹介や、ボランティアの募集情報の発信を行いました。

（４）大学生へのボランティア活動の啓発

令和３年度は、これまで「大学生を対象とした交流会」を行っていた日本女子大学が移転したことを契機として、今後の学生へのボランティア啓発についての検討を行いました。その結果、令和４年度からは、「学生と高齢者の交流事業」として進めていくこととし、区内２大学（専修大学、明治大学）に加え、移転した日本女子大学とも実施に向けての調整を行いました。

（５）各種ボランティア講座の開催

障害について理解し何ができるかを考えるボランティア入門講座として「オープンエアメーカーになろう」を開催したところ、２３名の参加がありました。また、車いす体験講座を企画していましたが、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置期間が延長となったため中止としました。

なお、毎年全市で実施している「夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習チャレボラ２０２１」は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

（６）福祉教育の推進

区内の小学校での総合的な学習としての福祉学習、関係機関や企業での福祉に関する研修等の相談に対して、学習や研修のプログラム作成への助言、講師の紹介、福祉用具の貸出と、関連情報の提供を行いました。また、福祉教育推進の方向性や課題を検討し実施する福祉教育推進委員会を開催し、福祉啓発を目的とした事業の取り組みについて話し合いを行いました。

ア 会議の開催

福祉教育推進委員会を１回、福祉教育セミナーグループ会議を１回、福祉教育サポートグループ会議を２回開催

イ 福祉教育に関する相談支援

相談件数 16件（小学校11件、その他5件）

対応件数 44件（相談1件について複数対応あり）

ウ 教職員と福祉学習支援者との交流会の開催

オンラインで区内の教職員と福祉学習に携わっている方が交流できる場を設け、今後の福祉学習に繋がる機会をつくりました。

エ 福祉教育セミナー、親子参加型福祉講座の開催

地区社協向け福祉セミナーや親子参加型福祉講座の開催を検討しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止し、地区社協の福祉教育に関係する部会等に福祉教育ハンドブックを配布し、福祉教育の周知に努めました。

オ 福祉教育ハンドブックの周知と効果的な活用の検討

福祉教育ハンドブック第5版を区内の学校や関係機関に配布しました。

カ 福祉教育用福祉用具の貸出し

貸出件数 22件

キ ホームページを活用した福祉教育推進に向けての情報発信

10 多摩区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業

高齢者や障害者で、福祉サービスの利用契約や日常的な金銭管理を行うことに不安のある方が地域で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かり等のサービスを提供しました。

(2) 成年後見制度利用促進事業

令和3年7月に川崎市から成年後見支援センター事業を受託し、成年後見制度の利用促進に関する事業を開始しました。

認知症や知的障害、精神障害等によって判断能力が不十分になった方が、自身の権利や財産を守り、安心して暮らせるように、成年後見制度の利用に関わる相談・支援を行いました。

相談件数 149件

支援件数 4件

11 老人いこいの家運営事業

(1) 区内7館（登戸、菅、錦ヶ丘、長尾、枡形、中野島、南菅）老人いこいの家の管理運営

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言が発出されたことに伴い、川崎市の運営方針に基づき、利用制限を設けながら、感染拡大防止策を徹底した運営を行いました。

例年実施していた利用団体の活動を発表する場としての講座発表会は、新型コロナ感染拡大防止のため今年度は作品展示会を開催しました。また、こども世代との交流事業は、3密にならないように配慮し、登戸・長尾・菅・錦ヶ丘・中野島老人いこいの家で実施しました。

団体利用者数 28,814名（利用団体数 4,076団体）

(2) いこいの家公開講座の開催

地域の方々に老人いこいの家を周知し、利用を促進するためのきっかけ作りとして公開講座を開催しました。「終活って何だろう!」「コグニサイズで認知症予防」「ボッチャを体験してみよう!」というテーマで企画し、地域の企業の方・川崎市役所の方に講師を担っていただき、少人数で複数回開催するなど新型コロナウイルス感染症予防の工夫を行いながら開催しました。

(3) こども文化センター等との多世代交流事業の実施

老人いこいの家での多世代交流は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数を定員制として実施しました。

こども文化センターと合築になっている長尾老人いこいの家では、裏庭に畑をつくり、高齢者が子どもたちに指導を行うことで、夏野菜を育て収穫を行いました。菅老人いこいの家では、夏休みを利用し高齢者が子どもたちにペットボトル風鈴作りを教える工作教室を実施しました。また、錦ヶ丘老人いこいの家では、子どもたちから送られたDVDを見て、感想の手紙を送る形で交流を行いました。

また、単館の登戸老人いこいの家では、少人数・短時間でプレゼント交換する形での中野島こども文化センターとの交流を行いました。

(4) 「ふくし寄合処たま」の開催

誰でも気軽に来られる居場所と相談機能を兼ね備えた「ふくし寄合処たま」を、区内5館（登戸・長尾・中野島・南菅・錦ヶ丘）の老人いこいの家で毎月1回開催しました。

地域包括支援センターなどの関係機関と共に地域の方々からの相談を受ける中で、地域の福祉的ニーズを把握し、課題解決に努めました。

(5) 老人いこいの家運営委員会

7館すべての老人いこいの家で、運営委員会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のために書面会議としました。

(6) 管理人、臨時職員研修会の開催

老人いこいの家の管理人を対象に、AEDの使用方法を含む救命救急講習および認知症サポーター養成講座を実施しました。

(7) 区内3館（登戸、菅、中野島）の老人いこいの家でのミニデイケアサービス事業の実施

川崎市からの受託により、区内3館（登戸・菅・中野島）の老人いこいの家において、地区社会福祉協議会やボランティアグループによるミニデイケアサービス事業を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止しました。なお、参加を予定していた利用者には見守りのため、実施メンバーから電話や手紙・季節に応じたプレゼント配布等による安否確認活動を行いました。

1 2 公益事業

(1) 川崎市高齢者フリーパスの販売

川崎市社会福祉協議会から川崎市高齢者外出支援乗車事業を受託し、川崎市高齢者フリーパスを年間3,415件（うち福祉パス676件）販売しました。

1 3 災害活動関連事業

例年、多摩区役所が実施する小学校を会場とした総合防災訓練で、災害ボランティアセンターの周知活動を行っていましたが、令和3年度は新型コロナウイルスの感染症の感染拡大の影響で総合防災訓練が中止となったため、周知活動もできませんでした。

なお、自然災害による被災地への支援活動の周知（共同募金会を通じての支援）については、掲示板を利用して随時行いました。

1 4 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

神奈川県共同募金会川崎市多摩区支会として、各地区分会と協力し区内の共同募金運動を推進しました。（「6 共同募金事業」の再掲）

(2) 多摩区民生委員児童委員協議会への協力支援

区内の各地区民生委員児童委員協議会の連携を目的とした多摩区民生委員児童委員協議会の事務局を担い、地域福祉活動の推進に深く関わる民生委員児童委員活動への支援を行いました。

(3) 多摩区当事者・ボランティア連絡会「たまわかくさ」への協力支援

区内を拠点に活動している福祉当事者や、ボランティアグループ等で組織している「たまわかくさ」の事務局として、運営委員会や研修会等の実施を支援するとともに、活動経費の助成を行いました。

1 5 その他

地域の福祉関係機関・団体との円滑な連携関係を構築し、地域における福祉的課題の把握に努めました。

また、川崎市社会福祉協議会が実施した「地域生活支援SOSかわさき事業の食料支援かわさき」について、昨年度に引き続き区社協会員や関係団体等に呼びかけて食糧を募集し、食糧を必要としている世帯へお渡しするほか、様々な事業に協力し、地域福祉の推進を図りました。

なお、社会福祉士相談援助実習の受け入れについては、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言期間が延長となったため中止となりました。

川崎市麻生区社会福祉協議会 令和3年度 事業報告

◆重点事業◆

1 区民の福祉への理解を促進する福祉啓発の推進と社会福祉協議会の広報・啓発の強化

広報啓発委員会による各種広報紙の発行やホームページの運営、また、新型コロナウイルス感染防止策のもと、昨年は中止を余儀なくされた福祉啓発映画会を実施しました。広報紙の配布については、業者委託によるポスティングや区内新聞折り込みを活用した広報方法の工夫により区民への福祉情報の発信に努めました。

2 地区社会福祉協議会を中心とする住民主体の小地域福祉活動の支援及び地域包括ケアシステムの構築に向けた地域力向上の取り組み

地区社協の自主的・主体的な活動と運営の充実・発展のため、地区社協の役員等と共に考え、地区社協支援を行いました。「コロナ禍でもつながりを絶やさない」ために、在宅福祉サービス委員会によるオンライン研修や、子育て支援委員会による子育てグループ等交流会の開催等、小地域福祉活動における感染防止対策に関する学習や情報提供の機会づくりに努めました。

3 ボランティア活動振興センター事業（福祉教育を含む）の充実強化

今年度は、ボランティア活動者交流会を小地域エリアごとにオンラインと会場参加によるハイブリット形式で実施しました。コロナ禍での創意工夫について、ボランティア団体の活動発表や情報交換を通じて、互いにボランティア活動への熱意を共有し、様々な参加団体がつながる機会となりました。福祉教育推進では、感染症拡大防止の観点から体験学習用スライドやDVDを整備し、学校からの福祉教育相談にて活用しました。

4 賛助会員増強の取り組みと区社協財源の確保

賛助会費は、麻生区内の小地域福祉活動を支える貴重な資金であることから、新型コロナウイルス感染拡大防止もふまえ、町内会・自治会のご理解のもと、強化月間を変更し賛助会員の募集を行いました。令和4年度については、従来の募集時期にて実施することといたしました。

5 今後の麻生区社会福祉協議会のあり方についての検討

長引くコロナ禍においても、今年度は、感染防止策の徹底や実施方法の見直し・工夫により、区社協事業の実施に取り組んでまいりました。今後も区社協事業を継続するために、財源確保策とその合理的・効果的な活用方法、経営基盤強化について、次年度も引き続き住民の新しい生活様式をふまえた検討を進めてまいります。

事業報告の内容

麻生区社会福祉協議会 事業費【29,357千円】

【サービス区分事業活動支出 24,320千円】

【共同募金配分金 5,037千円】

1 麻生区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、正副会長会議、運営協議会（会員意見交換会）の開催

ア 常任委員会の開催 4回

(5月25日、6月1日、8月24日、2月17日)

イ 正副会長会議の開催 4回

(4月16日、5月17日、8月2日、2月1日)

ウ 運営協議会（会員意見交換会）の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止（書面報告）

(2) 種別会員会議の開催

令和3年5月31日をもって任期満了を迎える区社協の常任委員会・委員会の委員候補者選出に向けた種別会員会議については、コロナ禍により書面にて開催しました。

ア 第6種会員（公立・民間社会福祉施設） 33団体

イ 第9種会員（当事者団体） 30団体

ウ 第10種会員（ボランティア団体） 34団体

エ 第11種会員（福祉関係団体・機関） 12団体

(3) 賛助会員募集事業の実施

コロナ感染症の影響により、6月・7月を賛助会員募集の強化期間とし、町会・自治会等の協力を得て、区社協・地区社協の趣旨や活動に賛同し、支援をしていただける賛助会員を募集しました。賛助会費は、1口1,000円を基本とし、協力をいただきました。

令和3年度募集	賛助会員数	金額
実績合計	2,669名	5,661,865円
麻生東地区	1,345名	2,259,032円
柿生地区	1,324名	3,402,833円

(4) 寄託金

令和3年度一般寄附 365,191円（寄託品で決算上金銭換算したものを除く）

(5) 寄託品

令和3年度寄託品 車椅子 1台

(6) 各事業の効果的な連携（総合相談支援）

ボランティア相談、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等の相談の他、福祉にか

かわる様々な相談等、支援を必要とする方への総合的な相談支援を区社協の各部署や行政、相談機関と協力連携して対応しました。

2 調査・研究事業

(1) 第4期麻生区地域福祉活動計画の推進

新たに策定した「第4期麻生区地域福祉活動計画」の冊子を作成し、区民や関係機関に冊子を配布・周知しました。

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修の開催

開催日	場 所	内 容	参加者数
令和4年 2月25日	新百合21ビル 多目的ホール	高齢夫婦の日常を記録したドキュメンタリー映画「幸せな時間」の上映	常任委員参加 14名

(2) 区社協職員研修の実施

各職員の職制や担当業務に応じた市社協職員研修や外部研修等に参加しました。

4 企画・広報事業

(1) 第32回あさお福祉まつり事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しましたが、来年度に向けた「あさお福祉まつり」の広報活動として、代替で令和3年度地域情報広報事業を実施しました。

ア 参加団体活動紹介カード

毎年参加いただいている、麻生区内の福祉団体・ボランティア・福祉施設等に作成を依頼し63団体の協力のもと新百合ヶ丘駅周辺に展示しました。(場所：新百合21ギャラリー、麻生区役所ロビー、期間：11月12日～3月25日、回数：計7回)

また、展示に合わせて視覚障害者が「参加団体活動紹介カード」を視聴できるように朗読ボランティア団体に依頼し朗読CDを作成しました。

イ しんゆりフェスティバルマルシェの出展

具体的に福祉について区民の理解を深めること、地域福祉活動に携わる人の連携を図ることを目的にしんゆりフェスティバルマルシェに出展しました。

「あさお福祉まつり」の写真や麻生区福祉施設の作業所製品の展示、麻生区社会福祉協議会の取組であるボランティア相談や成年後見制度相談などを実施しました。

開催日 12月18日、19日

(2) 広報啓発委員会の開催

ア 広報啓発委員会 3回(6月22日、11月11日、1月18日)

イ 「親子福祉探検隊」の開催

コロナウイルス感染の影響により、安全の確保が難しい状況ため、開催を中止しました。

ウ 「福祉啓発映画会」の開催

開催日	場 所	内 容	参加者数
令和4年 2月25日	新百合21ビル 多目的ホール	高齢夫婦の日常を記録したドキュメンタリー映画「幸せな時間」の上映	140名

エ 広報紙「ほほえみ」の発行

コロナウイルスの影響により、年間2回の発行に変更し、配布については、77号は業者委託によるポスティング、78号は新聞各社の折り込みで配布しました。

オ こどもや若い世代への福祉啓発

ボランティア活動振興センターの福祉教育推進事業と連携し、コロナ禍で講師派遣が難しい中、こども新聞等、体験学習用スライドやDVDを用いて福祉啓発を行いました。

カ ホームページの管理運営

区社協ホームページにより、区民に向けて、福祉団体のボランティア募集情報、地域の福祉情報、社会福祉協議会の事業などについて、随時発信しました。

キ 区社協の認知度を上げるための広報啓発の推進

令和3年度地域情報広報事業（第32回あさお福祉まつりの中止に伴う代替事業）にて、区社協事業の紹介パネルや公式キャラクター「キューちゃん」を使用したバックスクリーンを作成し、区社協のPRを行いました。

（3）地域のイベントへの参加協力

ア あさお区民まつり ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

イ 認知症普及啓発イベント「RUN伴+」実行委員会への参加協力

5 地域福祉活動事業

（1）小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の推進は、活動の主たる担い手である麻生東地区社協、柿生地区社協の運営を支援し、地区社協による主体的な活動が促進されるように働きかけを行いました。

（2）関係団体・機関等との連携、各会議等に参加

区役所、福祉施設、地域包括支援センター及び教育機関等が主催する各委員会、会議に参加しました。

（3）車椅子・福祉用具の貸出事業の実施

ア 車椅子の貸出（件数） 264回

イ 福祉器具の貸出（件数） 304件

（4）移送サービス事業の実施

区内在住で、車椅子利用や歩行困難などにより移動が困難な方に対して、外出の機会や社会

参加を支援するため、福祉車両「キューちゃん号」による移送サービス事業を実施しました。

本事業は川崎市社会福祉協議会麻生区支部として道路運送法による福祉有償運送登録のうえ実施しています。

- ア 賛助会員数 12名
- イ 運転ボランティア登録数 8名
- ウ 利用件数 96件
- エ 運営委員会の開催 2回（8月26日書面開催、3月4日）
- オ 運転ボランティア定例会の開催（奇数月開催）6回
（5月21日、7月16日、9月17日、11月5日、1月14日、3月18日）

6 団体等助成事業

（1）地域福祉活動への助成

- 麻生東地区社協 1,686,322円
- 柿生地区社協 2,626,983円

（2）ボランティアグループ等活動助成事業

地域のボランティアグループや当事者団体の自主的な活動を支援するため、その活動に対して必要経費の一部として助成金を交付しました。

24団体（計654,000円）

（3）高齢者ふれあい活動支援事業への助成 11団体（1,685,000円）

（4）社会を明るくする運動への助成 50,000円

（5）ボランティア・当事者連絡会への助成 190,000円

7 委員会活動事業

（1）在宅福祉サービス事業

「みんなでささえあう、暮らしやすいまちづくり」の実現に向け、地域包括ケアシステムの構築を見据えて、地域が抱える生活課題に対して、地域住民が自ら取り組んでいけるよう、地域のつながりを深め、お互いに顔の見える関係を築き、ささえあい、助け合うことができる地域力の向上を目指して事業を実施しました。

- ア 在宅福祉サービス委員会の開催 5回
（7月2日、10月7日、12月14日、2月4日、3月1日）
- イ コロナ禍の地域福祉活動について講演会

- (2月18日※オンラインと会場視聴で開催)
ウ 講演会に向けて委員会研修 4回
(11月9日、12月2日、8日、16日)

(2) 広報啓発事業(再掲)

区民へ地域福祉の広報啓発を図り、福祉活動への積極的な参加を呼びかけました。

(3) 子育て支援事業

子育てにおける悩みや課題に対し、アドバイスを行う講座や講演会を開催するとともに、地域における子育て中の親・子を支援する体制づくりなどについて、子育て支援委員会で協議・検討を行いました。

ア 子育て支援委員会の開催

4回(7月6日、9月28日、11月24日、2月3日)

イ 子育て関連グループ交流会の開催

1回(10月13日)

ウ 「ペアレントトレーニング『見直してみよう～うちの子って…～』

2回(12月7日、1月11日)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、回数を減らして実施

エ 「ペアレントトレーニング」参加者交流会

1回(9月17日)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

オ 子育て支援講演会の開催

1回(2月15日)

カ あさお子育てフェスタへの参加

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

8 共同募金事業

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会の実施する共同募金運動への協力

(2) 共同募金の配分金事業の実施

ア 年末たすけあい配分事業

年末たすけあい運動により寄せられた募金の配分について、区社協に配分委員会を設置して、支援を必要とする高齢者世帯及び障害者世帯を対象に、申請に基づいて見舞金を配布しました。

配分世帯 377世帯 配分実績額 1,885,000円

イ あさおオモチャとしょかん運営事業

障害を持つ子も、持たない子も、おもちゃを通じてともに遊び、豊かに育つことを目的に運営を行いました。

開館回数 46回

利用者数 448人

運営ボランティア数 延べ283人

次のウ～コは、財源の一部について共同募金配分金を受けて行いました。

ウ ボランティア・当事者連絡会への支援（活動育成費の交付）（再掲）

エ 助成事業（再掲）

小地域福祉活動の担い手である地区社協に対し、育成交付金として交付し、継続的な支援を行いました。（共同募金配分金から、麻生東地区社協へ 280,000円、柿生地区社協へ420,000円）

オ 区社協運営事業（再掲）

カ 在宅福祉サービス事業（再掲）

キ ボランティア活動振興事業（再掲）

ク 広報啓発事業（再掲）

ケ 子育て支援事業（再掲）

コ 移送サービス事業（再掲）

9 福祉パル管理運営事業

川崎市から受託した活動拠点「福祉パルあさお」の管理運営を行いました。

今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コロナ禍における川崎市行政運営方針に基づいて開館しました。

※4月1日～9月30日まで、大・小研修室、フリースペースの利用定員を各定員の半数以下に制限し、夜間開館時間を短縮（20時まで）しました。

※平成23年度から、大研修室〈定員40人〉と小研修室〈定員15人〉の2つの研修室の貸出しを行っています。

（1）研修室、フリースペースの貸出

ア 大研修室利用状況	452件（5,018人）	※前年度 243件（2,649人）
イ 小研修室利用状況	218件（1,021人）	※前年度 39件（113人）
ウ フリースペース利用状況	385件（1,366人）	※前年度 249件（1,024人）

（2）フリースペースのパネル展示・掲示スペース貸出（件数）

60件（5団体）

10 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯で経済的問題を抱える世帯に対し、各種資金の申込みを受付けるとともに、借受世帯への償還などにかかわる相談支援を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付の相談・申請対応を行いました。

（1）相談件数 5,912件（通常貸付 2,903件、特例貸付 3,009件）

（2）新規相談件数 50件 *通常貸付

(3) 貸付申請件数 13件 *通常貸付

(4) 新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付 申請件数1,415件

(5) 事務管理終了

償還完了	総合【4】 教育【3】 緊急小口【3】 福祉資金【1】	11件
移管		0件

(6) 貸付調査委員会の実施

1回(9月10日※書面開催)

1.1 ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

2回(7月8日、12月7日)

(2) 学生のための夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2021」

(市社協・各区社協等との共催事業)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(3) ボランティア養成講座「地域ボランティアデビュー2021」の開催

ア はじめてみよう！ボランティア2021(基礎講座)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

イ フォローアップ交流会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

ウ ステップアップ講座

「オンラインdeつながろうカフェ」

4回(1月19日、2月2日、2月9日、2月16日)

①オンラインdeつながった～みんなの今～

②これからのボランティア活動にむけて～コロナに負けない活動！～

エ 麻生区ボランティアのつどい(交流会)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

オ ボランティア専門講座(田園調布学園大学主催)への協力

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

カ ボランティア体験

2回(7月28日、29日)

「チャレボラ2021」で企画した内容の1つで、ボランティア体験を実施。

①施設のお話(オンライン)、車いす体験

②オンラインじゃんけん大会

(4) ボランティアコーディネート委員会の開催

ボランティアコーディネート体制の充実のため、ボランティア活動振興センター運営委員会の中に、「ボランティアコーディネート委員会」を設置し委員会を開催しました。

3回（11月4日、1月17日、3月14日）

(5) ボランティア受け入れ担当者向け講座

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(6) ボランティア相談事業（来所・電話・相談コーナーを含む）

令和3年度 ボランティアの依頼状況・調整状況

- ① ボランティア依頼（ボランティアしてほしい） 28件
- ② ボランティア活動希望（ボランティアしたい） 38件

(7) ボランティア相談コーナーの開設、再開に向けた検討

毎月第1、第2、第3火曜日の午後1時から3時の間、月に3回、そのうち、第1火曜日は、麻生区役所ロビーにてボランティア相談コーナーを実施してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。

(8) ボランティア受入状況などの現状把握するための取組

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(9) 広報紙「ぼらぼら」・情報紙「ぼらぼら広場」の発行

ア 広報紙「ぼらぼら」の発行

広報紙はほえみの紙面を活用して発行しました。 2回（7月、2月）

イ 情報紙「ぼらぼら広場」の発行

新型コロナウイルス感染症拡大により福祉施設等のボランティア受入募集が少ないため、3月以降は不定期の発行としました。

号数	掲載内容
第103号（12月発行）	・ボランティア情報10件

(10) 福祉教育推進委員会の開催

2回（10月14日、3月4日）

(11) 福祉学習申込みに関する相談・紹介・調整

①申込件数 28件（延べ件数）

内訳：小学校21件 中学校7件

本申込を通じて話を聞いた方・体験した方 2, 106人（延べ人数）

②内容 障害当事者等の講演・講習、車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、講師派遣及び体験受入団体の調整、物品貸出 等

ウ 小学校・中学校・高校の先生との福祉教育についての懇談会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

エ 福祉教育推進委員会委員研修

1 回（3 月 4 日）

オ 福祉教育に関わる広報啓発

広報啓発委員会と連携し、コロナ禍で講師派遣が難しい中、こども新聞等、体験学習用スライドやDVDを用いて福祉啓発を行いました。

(12) 災害ボランティアについての取り組みの推進

ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

イ 麻生区総合防災訓練への参加

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

開催日 令和3年9月4日（土）

会 場 金程小・中学校

(13) 相談窓口設置機関（麻生市民館・やまゆり・社協）の連携強化

平成28年度に麻生区役所（麻生市民館）、NPO法人あさお市民活動サポートセンター（やまゆり）と麻生区社会福祉協議会が協力して、区内で活動している市民活動団体の情報を一元化し立ち上げた麻生区市民活動団体検索サイトの広報、周知に協力しました。

また、掲載団体へ情報更新の依頼を行いました。

12 麻生区あんしんセンター事業

麻生区内に在住する判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等の権利擁護を目的として、日常生活自立支援事業の実施及び令和3年7月からは成年後見制度の利用に向けた相談、支援を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業の実施

日常生活自立支援事業においては、福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス及び書類等預かりサービスを実施しました。福祉サービスの利用料の支払い、生活費の出金など金銭の出し入れの手続き、公共料金や医療費等の支払い手続きを行いました。

・日常生活自立支援事業にかかわる相談

相談件数 1, 498件（初回相談43件、継続相談1, 455件）

・サービス契約者数（令和3年度3月末の継続利用者数）

福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス 21名

書類等預かりサービス 5名

(2) 成年後見制度の利用推進

令和3年度より川崎市社会福祉協議会川崎市あんしんセンターでは、川崎市から成年後見支

援センター事業を受託し、各区あんしんセンターにおいても成年後見制度利用促進のため、広報機能や相談機能を実施しました。

- ・成年後見制度の概要や申立て手続きに関わる相談

相談件数 219件（初回相談89件、継続相談130件）

（３）関係機関との連携及び連絡調整

行政機関や地域包括支援センター、地域相談支援センターが実施するカンファレンスや麻生区高齢者支援カンファレンス（年12回開催）に出席し、権利擁護支援にかかわる地域連携ネットワークの構築の推進に努めました。

13 老人いこいの家運営等事業

麻生区内7館の老人いこいの家の指定管理者として、地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活が送れるように、施設（各部屋）の利用をはじめ、教養講座や行事を開催し、高齢者の活動を支援しました。

また、各老人いこいの家の運営委員会と連携し、施設の適正な管理運営を行うとともに、地域福祉活動の拠点としての有効利用に努めました。

（１）指定管理事業

ア 老人いこいの家の運営委員会の開催

（※印：新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面報告等による開催）

- | | |
|--------------|------------------------|
| ①王禅寺老人いこいの家 | 2回（7月8日、1月19日） |
| ②片平老人いこいの家 | 2回（6月8日、2月28日※） |
| ③千代ヶ丘老人いこいの家 | 2回（5月18日、3月8日） |
| ④白山老人いこいの家 | 2回（6月29日、1月31日） |
| ⑤麻生老人いこいの家 | 3回（5月28日、9月24日※、1月28日） |
| ⑥岡上老人いこいの家 | 3回（7月7日、12月4日※、3月25日※） |
| ⑦百合丘老人いこいの家 | 4回 |

（6月21日、9月27日※、12月22日、3月3日）

イ 令和3年度利用状況 開所日数合計2,058日 利用人数合計49,948人

ウ 令和3年度入浴事業利用者の状況 利用者数合計2,450人（3館分）

※白山老人いこいの家については、ボイラー機器老朽化のため令和3年9月事業廃止

エ 教養の向上及びレクリエーションに関する事業

- | | | |
|-----------|-----------|-------------|
| ①教養講座 | 開催回数計598回 | 参加人数計4,622人 |
| ②レクリエーション | 開催回数計12回 | 参加人数計663人 |

オ 多世代交流・地域交流に関する事業 開催回数計11回 参加人数計356人

カ 健康づくり・介護予防に関する事業

区役所や地域包括支援センターが実施する事業に協力した。

キ 高齢者の社会参加を促し、高齢者の活躍の場につながる取り組みを推進

ボランティア活動振興センター事業と連携し、高齢者がボランティアに関心を持っていた

だけるよう、関連リーフレットや活動紹介冊子等を各館に配架・設置した。

ク 消防訓練・避難訓練の実施 実施回数計7回 参加者数計208人

ケ 老人いこいの家管理人連絡会議・研修会の開催

①普通救命講習Ⅰ・救命処置実技（心肺蘇生とAED）：川崎市消防防災公社主催

5回（6月9日、8月2日、11月13日、1月23日、3月22日） 計32名

②いこいの家管理人連絡会議

3回（10月26日、10月27日、10月29日） 計20名

③いこいの家代替臨時職員研修 ※書面による開催 代替臨時職員22名

1回（2月15日）

1 4 公益事業

川崎市から受託し、市営・民営バスに乗車する「川崎市高齢者フリーパス」を交付及び販売することにより、高齢者の社会活動への参加を促進し、高齢者の福祉の増進を図りました。

交付枚数 計745枚

1 5 災害活動関連事業

平成29年度の川崎市総合防災訓練（麻生区開催）をきっかけに、行政、市・区社協をメンバーに麻生区災害ボランティアセンター設置運営について検討してまいりました。令和2年度からは、会議名称を「麻生区災害ボランティアに関する連携会議」と変更し、ボランティア活動振興センター内に置き、災害ボランティアセンターの設置・運営に限定することなく麻生区の災害ボランティアについて広く協議・検討しています。

（1）災害ボランティアについての取り組みの推進（再掲）

ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

イ 麻生区総合防災訓練への参加 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

開催日 令和3年9月4日（土）

会 場 金程小・中学校

（2）災害対策・事業関連

事業継続計画を定期的に見直し、更新しました。

（3）災害発生時に必要な物品等の整備

アルファ米等、災害備蓄食品を購入しました。

1 6 団体事務

関係団体事務局として、団体運営・活動に支援協力しました。

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会への協力

(2) 麻生区民生委員児童委員協議会

(3) 関係団体の事務協力

(4) 麻生区賀詞交歓会の共催

令和4年麻生区賀詞交歓会 正副会長会議（11月8日開催）にて中止を決定。

1 7 その他

その他、地域福祉推進に必要な事業を実施しました。